1968年11月20日発行（毎月1回20日発行）第12巻第11号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖法の道 11

心　の　糧

十二使徒評議員
ハワード W. ハンター

真のクリスチャンは，イエス・キリストの福音がただ信ずるだけのものではなく，行動するための計画であることを理解しなければならない。

福音は権威あるものであり，まさしくその本質は行動への呼びかけである。主は我が福音を「見よ」ではなく，それに従って「生きよ」と言われた。また，「その美しい構成と表現を心に留めよ」ではなく，「行きて行ない，吟味して体得し，全てを捧げて信ぜよ」と言われたのである。イエス・キリストの福音は個人の確かな行動を求める権威と言葉に満ちており，義務とひきつける力にあふれている。

強い目的意識が念頭になければ，いかなる努力も決して報いられることがない。実際の目標や目的には，具体的に行動の動機と導きとなるものが存在しなければならない。それで我々には救いと進歩の計画が与えられているのである。

福音は長期の永遠にさえもわたる目標であるが故に，今日にも，明日にも，明後日にも達成できる短期の，当面の目的にそれを分けて考えることが必要なのである。

福音は人生の道であり，平易明瞭にして実際的である。それは行動の教えであり生活のすべをつくりあげる日々のごく小さな行動にまでおよぶのである。

——もく じ——

予言者のことば
○人生の誘惑……大管長　テビド O. マッケイ……57
モルモンユーモア……58
教会幹部の新分担地域……59
ジョージ・ロムニーへの政治に関する質問……60
管理監督会のページ
敬虔であること……ジョン H. バンデンバーグ……63
扶助協会
○婦人の皆さんへ一言……エヌ・レイ・リッグズ・マッケイ……65
こうして私は扶助協会を知った……リクシン・イーガー……66
日曜学校
人を不死不滅なものにする教師……67
賢明な委任……エズラ・タフト・ベンソン……69
若人のページ
○どんな方法で？……バージニア・モーガン・カミヤー……74
M I A
○モルモニズムは若さを保つ……77
系　図
神殿記録索引局……79
伝道部長メッセージ……81
ローカル・ニュース……83

子供のページ

ジャンとすてきな馬……17
ちょうちょどろぼうのひみつ……20
コルクのうき……21

教　会　歴　史

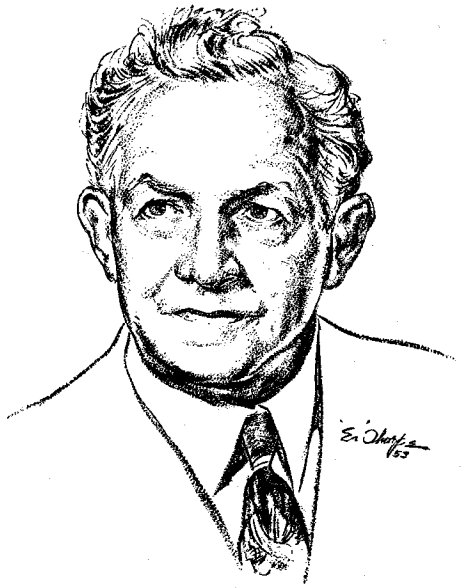
11月17日
1964年オークランド神殿献堂さる

11月21日
1841年カートランド神殿で始めて死者のバプテスマが行われた

11月21日
1919年ハワイ神殿献堂さる

今　月　の　表　紙

今月の表紙は，テンプルスクェアの訪問者センターにあるソルバルセンの作ったキリストの像です。私たちはここで福音の教えを知ることができます。人々は斜面を昇り，ついには天の大空に位する救い主の像の前に出ます。そこを訪れるすべての人々は，美しいその象徴的な情景に深い感銘を受けます。



人生の誘惑

大管長　デビド O. マッケイ

人は信仰により歩むように地上に送られた。現世の生涯は試しの時期である。この地上の生活の一部として誘惑は避けがたいものではあるが，試しとは誘惑に屈するということではない。

救い主は，全世界で最も偉大な模範を我々に示された。そこでいたる所に住む人々，特に教会の会員は，主を理想として常に心に留めているのである。救い主はバプテスマを受けられた直後に，誘惑の山として知られる山の上に連れて行かれた。それが主のお立ちになった所か，また40日の間断食をされた所であるか否かを私は知らない。しかし，いくつかの山上で試みる者が主のもとにやって来た。そこで聖典には次のように記されている。試みる者がいつもなすように，主の最も弱い点と思うところを攻めた。救い主が断食をされた後なので，空腹であると試みる者は考えた。最初の誘惑はご存知のように次の言葉で始まっている。

「もしあなたが神の子であるなら，これらの石がパンになるように命じてごらんなさい。」（そのあたりにはユダヤのパンに似た石があるので，あらゆる強い者にもその誘惑は効果的であったことであろう。）

キリストは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるものでなく，神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」

次の誘惑は虚栄心をついたものであった。

「もしあなたが神の子であるなら，下へ飛びおりてごらんなさい。（宮の頂上から）『神があなたのために御使たちにお命じになると，あなたの足が石に打ちつけられないように，彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。そこで救い主は答えて言われた。「主なるあなたの神を試みてはならない。」（マタイ 4：3〜7）

サタンは己れの勝利を得んとする企ての中で聖なる句を引用したのであった。シェイクスピアが「ベニスの商人」の中でアントニオにどのように言わせているかを思い出してみよう。

「悪魔も聖書を引きあいに出すことがあるものだ，自分勝手な目的にな。
根性のまがったやつが神聖な句を楯にとるのは悪魔が作り笑いをするのと同じだ。
見かけは立派だが芯の腐ったリンゴだよ。

まがい物が見事な外面をもってること，おそるべきものだ！」（第1幕第3場）

第三の誘惑は富と権力に対する愛であった。試みる者がイエスを高い山に連れて行き，この世につける物とその栄華とを見せて言った。「もしあなたが，ひれ伏してわたしを拝むなら，これらのものを皆あなたにあげましょう」 するとイエスはその神よりの権威をもって言われた。「サタンよ，退け。『主なるあなたの神を拝し，ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。そこで試みる者は離れ去り，御使たちがみもとにきて仕えたと書かれている。（マタイ4：9〜11）

サタンはあなたの最大の弱点につけ込んで，試み，打ち負かそうとする。すなわちあなた自身が弱くなると，サタンはその弱さを一層ついてくるのである。サタンに立向うならば，力を得るであろう。もし別な方法で試みるなら，また立向って行きなさい。するとサタンは一層弱くなるであろう。今度はあなたが，どんな状況にあろうとも，次のように言えるまでに強くなるであろう。「サタンよ，退け。『主なるあなたの神を拝し，ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。（マルコ 4：8）

今日では，どこに誘惑が来るであろうか。人の集まる所，政界，取引関係，雇用関係において我々にそれがやってくる。

我々が誰れも見ていないと思う時に誘惑がよくやって来る。しかし，いつも誰れかが見ているものであり，その人は我々に失望すると，我々ばかりでなく，そのよって立つものまでも目ざとく批判しがちである。我々がただ黙って誘惑に打ち勝つこと程，教会をよう護する機会はないであろう。我々は集会でよく歌っている。

「山の上や荒れる 海を越えゆき また戦の場にも 主は召したまわん
わが知らぬ道へと 呼ぶ声小さくも 主によりこたえつつ みむねのまま行かん
（讃美歌第100番）

この静かで，小さな声が，義務を果すように呼びかける時に，それが意味のないものに思われ，当時者と神を除いて誰れにも知られていない事であっても，その呼び声に応える人は，御意に従って行う力を得るのである。

誘惑は同じようにしばしば静かにやって来るものである。おそらくその誘惑に屈することは，当人と神以外誰れにも知られないとしても，その人が屈してしまうなら，世の悪にひどく弱められ，汚されてしまう。

決してあなたは，悪いものに妥協し，へつらってはならない。誘惑をしりぞけ，サタンに立ち向いなさい。そうすればサタンはあなたから身を引くにちがいない。

モルモンユーモア

1. 生徒「先生，この足し算を十回しました」
先生「よろしい。けっこうだ」
生徒「答が十通り出ました」

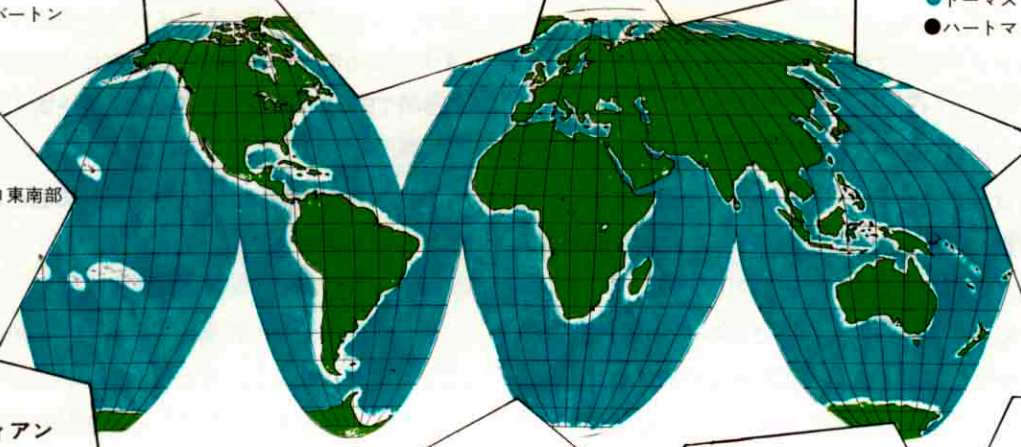
2. ある米国人がロンドンのパーティでどこか見覚えのある美人にあったが，仲々思い出せないまま，近ずいて言った。「またお目にかかれて光栄です」相手は「どうも」と言っただけなのでさらに彼は続けた。「御母上は如何ですか」「おかげさまで元気ですわ」「御兄上は如何ですか」「あら，私，兄はおりませんの。」いささかあわてて彼は云った。「では御姉上は？」その美人はにっこりして答えた。「まだ女王をしておりますわ。」

3. 「君はタイプが打てるかね」
「うてます。私のは聖書式打ち方です。
探せよ，さらば見い出さん。」

4. 日曜学校の先生が，子供達にノアの箱舟の話をした。いろいろな動物達が船にのせられた事を話してから，先生は言った。「ノアはひまな時にまわりの海の魚を釣ったと思いますか。」
「どうして先生」かわいらしい声が聞こえた。
「箱舟に乗せたたった二匹のみみずでつったの？」

教会幹部の新分担地域

教会の大管長会は、14の伝道地域を管理する十二使徒評議員と補助の教会幹部を発表した。この新しい責任は六月一日から実施される。以前には12の伝道地域であった。



欧州西部

フランス―ベルギー、フランス、
フランス東部、オランダ、
南アフリカ

●マリオン G．ロムニー
●ボイド K．パッカー

米国中部

中部諸州、五大湖地方、
オハイオ、メキシコ湾諸州、
北部中央諸州、テキサス、
テキサス南部

●ハロルド B．リー
●ジェイムズ A．カリモア

米国東部

カナダ、クモラ、
太西洋東部諸州、
東部諸州、ニューイングランド

●マーク E．ピーターセン
●マリオン D．ハンクス

スカンジナビヤ

デンマーク、フィンランド、
ノルウェー、スエーデン、

●マリオン G．ロムニー
●S．ディルワース ヤング

米国
西部海岸

アラスカ―カナダ、カリフォルニヤ
カリフォルニヤ北部、同南部、
北東部、太平洋北西部

●リチャード L．エバンズ
●セオドア M．バートン

欧州―ドイツ

オーストリヤ、ドイツ北部、
ドイツ中央部、ドイツ南部
ドイツ西部、スイス、イタリヤ

●トーマス S．モンソン
●ハートマン レクターJr.

北米 スペイン語諸国

ガテマラ―エルサルバドル
中央アメリカ、メキシコ、メキシコ東南部
メキシコ西部、メキシコ北部、
スペイン語系アメリカ西部、
メキシコ北部中央

●デルバート L．スティプレー
●フランクリン D．リチャーツ

東洋

韓国、南部極東、フィリピン
日本、日本―沖縄

●エズラ タフト ベンソン
●ブルース R．マッコンキー

山岳部、インディアン

北部インディアン、南西部インディアン、
カナダ西部、西部中央諸州、
西部諸州、

●リグランド リチャーズ
●A．セオドア タトル

米国南東部

太西洋中央部諸州、
フロリダ、東部中央諸州、
南部諸州、

●マーク E．ピーターセン

英国

英国、英国中央部、
英国北部、英国南部、
英国南東部、アイルランド、
スコットランド

●スペンサー W．キンボール
●ジョン ロングデン

オーストラリヤ
ニュージーランド

オーストラリヤ、オーストラリヤ南部
オーストラリヤ西部、
ニュージーランド、
ニュージーランド南部

●ハワード W．ハンター
●エルレイ L．クリスチャンセン

南太平洋

佛領ポリネシヤ、
サモア、トンガ
ハワイ

●ハワード W．ハンター
●ヘンリー D．ティラー

南米

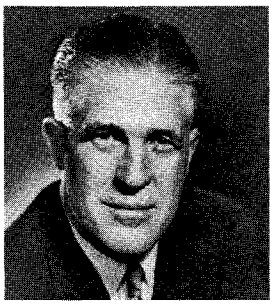
アンデス、アンデス南部
アルゼンチン、アルゼンチン北部、
ブラジル、ブラジル南部、
チリ、ウルグアイ、
ブラジル北部

●ゴードン B．ヒンクレー
●バーナード P．ブロックバンク

● 十二使徒評議員 ● 十二使徒評議員会補助
● 七十人最高評議員

補欠：アルマ・ソニ、スターリング W．シル、
ミルトン R．ハンター、ロレン C．ダン

ジョージ・ロムニーへの政治に関する質問


ジョージ・ロムニー

末日聖徒の中でミシガン州のジョージ・ロムニー知事ほど，公人として著名な人はいない。知事に三選される以前は，アメリカンモータースの社長で，当時の合衆国に小型車革命をひきおこした。デトロイトステーキ部長でもあった。今年の初頭，共和党大統領候補指名選挙に立候補した。長年にわたる人道的奉仕とそのために受けた賞の数々は，それと同じく重要でありながら余り知られていない。公的な責任についての彼の思想は甚だ興味深いものであろう。

質問　あなたの経験から，教会員は今日の世界にどの様な印象を与えていると思いますか。

答　西欧のキリスト教文化圏外に住む人々は，当教会についてほとんど知っていません。

一般に末日聖徒は勤勉で正直だとみられています。教会や教会員達が，貧しい人々と生活不能の人々の世話をすることや，個人の尊厳と独立を侵さずに援助するという実際的な計画を多くの人々が賞賛しています。

また一方，私たちがクリスチャンであるかどうかを知らない人々も多くいます。彼らは私たちの信仰や原則をはっきり知っていません。またとくに最近は，モルモンが偏見を持つ人種差別主義ではないか，特に黒人を，他人種と比較したり神との関係において劣等人種であると思っているのではないかと考える人々も多くいます。

しばしば教会員達から手紙を頂きますが，心配なことは，非常な偏見を示すつまらない質問の手紙のことです。もちろん，非常に少数の教会員にすぎないと思ってはいますが，彼らの考えは幾分偏狭です。概して，教会員をよく知っている人々は，好感を抱いています。しかしながら，我々が思っているほどには，よく知られていない様です。

質問　世界が直面している最もさし迫った問題は何とお考えですか。

答　神への信仰と，同胞に対する信頼の欠如でしょう。これは規律の欠如，道徳の低下，家庭生活の退廃，個人の責任感の減少，そして，社会の世話になって生活しようという気持や，ただで物を手に入れようとする態度に現われてきています。この霊性の衰退は人種差別にも反映しており，このことが今日の世界の最大の問題であると考えます。

質問　市民活動に対する末日聖徒の務めについてはどの様にお考えですか。

答　霊的生活を，社会的，経済的，政治的生活から分けることはできませんし，また好き勝手にふるまうこともできません。とりわけ末日聖徒は，その霊的思想の故に一そう，社会的，経済的，政治的な生活にとりくまねばならないのです。残念なことに，時間と努力が教会にとられるので，市民としての義務を軽んじてもよいと考えている教会員もおられるようです。この故に，出来るだけ多くの人々が教会の仕事をうけもたねばならないのです。そうすれば，各自の負担が重すぎることはなくなるはずです。色々な責任を考えてみると，先ず第一に大切なのは教会と家庭です。教会は私たちが良い健全な家庭生活を営むためにあります。その教会と家庭に次ぐものが市民活動にとりくむ責任なのです。

質問　末日聖徒の人をも含めて，政治を高潔な人物にふさわしくはないとして，政治活動に携わらない人々がいます。そのような態度をどうお考えですか。

答　価値ある人々が参加しなければ，政治活動はとるに足りないものになります。高い理念を有する教会員達こそ，不十分な政治を改めるために活発に参加すべき人々です。

質問　政治生活のうちで福音の原則に反する様なことにはどう対処したらよいでしょうか。

答　人の生活で，まったく完全なものはないように思います。政治活動に不健全な面がある場合，政治家は自分の地位において改善に努力することです。もっともこのことは，実業界にあっても，社会や教会にあっても，同じことです。私自身は福音の原則に反する様な政界固有の慣習はまだ知りません。

私がここで強調したいことは，定員会や補助組織で経験をつんだ教会員は特に，政界をふくめてどの分野でも組織と権威を最もよく用いて良い結果を生みだせるということです。最も扱いにくい道具は権力という道具であると思います。この権威の行使に関しては，末日聖徒ほどによい啓示と導きと経験に恵まれている人々はいないと思います。

質問　末日聖徒が他人との交際にあたってクリスチャンとしての標準を落さずに社会や政界において十分やって行けるとお考えですか。あなたの経験ではいかがですか。

答　それはできます。思慮深い人々にとっては問題ありません。もちろん例外はありますが，信条を全うする人は尊敬されるものです。私が知ったところでは，人々は，「あなたよりも聖い」という態度をとったり，自分の教会の尺度で教会外の人々をはかったりする人をきらいます。我々にとっての道徳不道徳も，教会員でない人々にとっての道徳不道徳と違うことが多くあります。我々が確信していることでも他の人々にとってはそうでないことも多くあります。教会員が他の人々をみな，自分の標準にあてはめてはかろうとする時に問題が起こるのだと思います。

私がデトロイトに来た時，ワシントンの人々に言われました。「ウイスキーや葉巻好きの自動車作りの連中に伍して，どうやって自動車産業で頭角を表わして行くのかね」しかしそれはむずかしくなかったし，自分がウイスキーや葉巻をやる必要もありませんでした。私はただ，いっしょに働いても彼らにいやな気持を与えなかったのでした。政界入りに際しても同じことが言われましたし，教会の人々からいただいた手紙の多くは，道理に合わぬことや，教会の原則にかかわりのないことについてでした。私が交わった人々は，私がトマトジュースやレモネードを飲んでいてもそんなことにはかかわりなく楽しいのです。彼らはそのことで決して気を悪くなどしません。

質問　周囲の末日聖徒の行いや態度で，政治活動の際に困ったことはおありですか。

答　そういうことはほとんどありません。多くの人たちからよい助力を頂いていますし，教会員のでている政治集会に行く時も，一般にそのふるまいは立派だったと思います。自分の家においてさえ，その場に居合わせる非教会員を軽んじる発言をした教会員もあるにはありましたが，しかし，私の政治生活で経験した主な問題は，人種問題に対する我々の態度について非教会員が釈然としない印象をもっていることです。我々が黒人の人々もみな完全な市民権があることを本当に信じているかどうかが，本質的な問題だと思います。

質問　その問題に対する答はいかがですか。

答　教会の方針は大管長会によって述べられました。すなわち，私たちは独立宣言と合衆国憲法が真であると信じ，すべての人々に完全な市民権の存することを信じています。社会的不平等と人種差別の撤去につくした私の記録を見て頂きたいと思います。判断の基準は他の人の印象ではなく，その業績に基くべきだと考えます。私は教会の教義を論じることをお断りして来ましたが，その理由は，我々が人種的偏見を

抱いていないことを理解していただくためには，前世や来世やすべての考え方を論じなくては教会の教義を説明できないと思うからです。そのことをすれば，公的な仕事に宗教論争をもちこむことになり，我々の信条と反することになります。我々は政教の分離を信じています。

質問　教義と聖約101：77～80に記されている合衆国憲法をつくるために立てられた人々についての啓示によって，この憲法の改正は不可能だという意見がありますが，これを誤りとお考えですか。

答　私は，もし教会員が，その啓示が憲法を変えてはならないという意味だと考えるならば，それは啓示を誤まって解釈していると考えます。なぜなら，この憲法の大切な条項の一つに，改正が必要な場合には変えることができるという宣言がありますし，実際，変えることも必要だからです。しかし，改正の手続きは憲法に規定されており，それが建国の父達の霊感によることは明らかです。彼らは移り変わる状況のもとに改正も必至であることを知っていました。今日，世界に広がる新しい問題に直面する時，邪悪と不正を正すために改正も可能であることを異議なく認める必要のあるのは明らかです。しかし，改正は平和的に秩序ある方法によってもたらされるものであり，憲法の中に，誰れにも法律を犯す権利のないことがうたわれている大きな理由もそこにあるのです。

質問　米国における社会不安の解決はどうしたらよいとお思いですか。

答　簡単に言うと，社会正義のない社会秩序はありません。我々は秩序ある平和的な変革を通して社会正義が達成できることを行動で示さねばなりません。

人種や肌の色が何であれ，すべての人々は文字通り神を父にいただく兄弟であると信じる我々は，社会正義と社会秩序のために闘う指導者とならねばなりません。米国民で米国の法を犯す権利を持つ者は一人もいません。また人種や肌の色のために，人間の尊厳や完全な市民権や，平等の権利や正義を否定できる人も誰れ一人としていません。

教会の初期の会員たちが奴隷制度廃止のため先頭に立って闘ったように，我々も法と秩序を守り，黒人その他の人々の社会的不平等と二流市民の地位を撤去するため，先頭に立って闘うべきです。現今の社会不安を悪用しようとする破壊者のあることは明らかですが，黒人が，早く完全な市民権をもって，米国の将来に100パーセント参加する希望をすてぬ限り，これら危険な人々をおさえることができます。

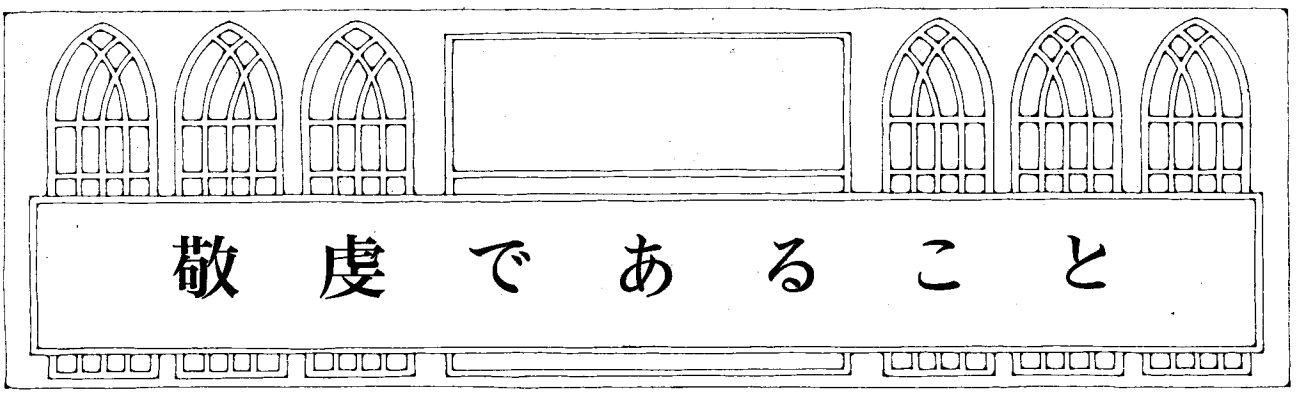
マタイ伝25：40の「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわちわたしにしたのである」そしてモルモン経，第Ⅱニーファイ26：33の「主は人間に明らかでなければ何事もなしたまわず，万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている」というイエスの御言葉を忘れてはなりません。

質問　政治生活の経験は満足できる有益なものだったでしょうか。

答　大きな満足と豊かな実りを与える経験です。はなはだ骨の折れる仕事ですが，私の生活に新しい面を開いてくれました。国内と国際問題にさらに目を向ける様になり，公共に尽す人々，政治活動に携る人々の払った犠牲を一層感謝出来る様になりました。公共に奉仕するという満足感の故に，この犠牲は大きな価値があるものです。

結びとして，教会員である我々は信仰，教育，協力，仕事などの重要性をさらに認識すべきことと，公共生活においてその重要性を強調する立場にいる事を申しあげたいと思います。

政治その他公的なことで成功を収めるよりさらに大事なことは，自分のなし得ることを行なうことであり，「すべての業は影響を及ぼし，すべての行ないは最後に必ず軽重を問われる。勝利を見ようと，戦いの最中に死のうと，それは問題ではないのだ。」とは，正に至言であります。



敬虔であること

管理監督
ジョン H. バンデンバーグ

昔イスラエルとシリアが争っていた時に，シリア軍の秘密の計画が全部知られてしまっているかのようにイスラエル軍はシリアの戦略に常に準備していました。この事態がシリア軍の裏をかくことになったので指揮官の一人がその計画を漏らしたのではないかと思われました。聖書はこのことについて次のように記しています。

「スリヤの王はこの事のために心を悩まし，家来達を召して言った『われわれのうち，だれかイスラエルの王と通じているのか，わたしに告げる者はないか』。ひとりの家来がいった，『王，わが主よ，だれも通じている者はいません，ただイスラエルの予言者，エリシヤが，あなたが寝室で語られる言葉でもイスラエルの王につげるのです』。」

（列王紀下 6：11～12）

ただちにシリアの軍隊は予言者エリシヤが住んでいるドタンに移り，夜のうちにその街を取り囲みました。

エリシヤの召使でゲハジという名の若者は朝早く眼をさまし外を見た時に恐ろしい光景を眼のあたりにしエリシヤを起こし恐ろしげに『「ああわが主よ，わたしたちはどうしましょうか」と叫びました，エリシヤは見て静かに言った「恐れることはない。われわれと共にいる者は彼等と共にいる者よりも多いのだから。」そこでゲハジはその意味が解らなかったので，エリシヤが祈って「主よどうぞ，彼の目を開いて見せてやってください」というと，主はその若者の目を開かれたので，彼が見ると火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシヤの囲りにあった』。（列王紀下 6：15～17）

私達は時々ゲハジのようになり，福音の神聖な力や重要性を理解出来なくなることがあります。私達が成長するにつれて，福音の意味深い神聖な重要性を理解するように眼をひらいていることが大切なのです。霊的な洞察力が欠けているためにある青年達は人生の数々の神聖な事実に尊敬を払いません。霊的洞察力や理解の必要と尊敬や敬虔の特質とはどんな関係があるのでしょうか。

マッケイ大管長は敬虔について「愛を含んだ心からの尊敬」であると語りました。更にマッケイ大管長は語っています。

「神や神聖な物事に対して敬虔な心をもつことは偉大な人の主たる特質である。偉大でない人々でも成功するかもしれないが，敬虔さがなければ決して偉大にはなり得ない。偉大な人は敬虔である。その人は神に対して敬虔であり，神の創りたもうたあらゆるものに対しても敬虔な心を持っている。そして，今日の世界が直面している大きな問題は神やその御子やイエス・キリストの福音に対する態度なのである」。

（幸福への道 P.261）

私達の予言者のこの言葉は大切な意義を提示しています。もし教会において若い男女一人一人が毎日の生活の中でこの言葉の意味を実践によってはっきりと知るなら，この言葉は

一人一人に大きな力を与えることでしょう。

トーマス・カーライルはエジンバラ大学の学長として就任した時に注目すべき即興の演説をし，ゲーテの「ウイルヘルム・マイスターの旅」からいくつかの重要な考えを引用しました。それらの考えというのは敬虔の重要性を強調しています。

彼は次のように語りました「私達を苦しめたりあらゆる面で妨害したりするような危険な要素から守って，青年時代を立派にすごすべき重要な時に，全ての他のものを超越する機能を考えたり，統御したり，管理するために世界で最も賢い三人の男の人が集まりました。三人のうちの最年長者はウイルヘルムに『健全さを良く教えられている子供は沢山の素晴しい贈りものを世にもたらしますよ。そして非常にまれですがこの賜はわずかな助けだけで自然に大きくなります。しかし，どの子供も世の中にもたらすことが出来ないものがあるんだよ，その上それなしでは全て他のものが役にたたなくなるんだよ』。と云いました。

ウイルヘルムはそばにいてその年長者に『それは一体なんですか』と尋ねました。『多分あなたでもそれを本当に欲しがりますよ』とその年長者が云ったので『それは一体なんであるか教えて下さい』とウイルヘルムは言いました。『それはね，いいかね，敬虔，敬虔ということなんだよ。尊敬は私達よりも偉大で素晴しい人々に払われたもので当然恐れとは性質が異っているし，<敬虔>はかって人々の間にあり，またこれからも存在するだろうと思われるあらゆる宗教の精神なのだよ』と他の賢人が答えました。

けれども私達は子供達が世の中に敬虔さを持って来ないかどうか解かりませんが，『敬虔さなしでは全て他の物事は無益である』ということは疑いもなく事実であります」。

マッケイ大管長は「敬虔とは強さの印の一つであり，不敬は最も明確な弱さの印である。神聖なものごとをあざける人は誰れでも決して高貴な人になりえない」と言っています。このことは私達の予言者が真実偉大な人であり非常に敬虔な人であることを表しています。このことに関して全ての教会員にチャールス・エドワード・ジエファーソンの言葉を引用して語りました。

「私達は生来敬虔な人間ではないし訓練によってそうなるのでもない。年代とともに敬虔な心が失われていくという人々がいる。老人達は一様にいくらかの美わしい丁寧さや昔しはもっと普通であった美しい敬虔さを失っていることを嘆いている。社会全般からこの敬虔さが失われている。多くの階層の男女は如才がなく，面白く，才気縦横であるが人生の三つの面の一つが欠けている。だから人々は高い水準に達し得ないのである。彼らの会話には知識がひらめくがそれはつまらなく，時には軽薄な感じさえ与える。彼らの話は機知に富んでいるが，その機知はしばしば高貴な神聖な物事を犠牲にしているのである。その様な人は自分の知識を示すためにあらゆる良い人々によって賞讃されてきた物事をあざけることが必要であると思っている。そのためにますます高い水準から落ちてしまっている。ある人が私達の今日の改革家達の世界に足を入れた時に，高い目標を目ざすことに欠けている多くの人々がいることに気付くであろう。この人々の多くは恐ろしいほど本気であり，世の中の悪を見るとそれを悪と感じ彼ら（人々にする）の同情は広く，熱心さははげしいけれども彼らはそれ以上発展することができない。そのような人々は天にいます父に栄光を帰さないのに，彼らの幾人かはナザレ人を讃えることを公言する。彼らはキリストの性格とその教えを賞讃する。しかし，不思議な話であるが，彼らはキリストの敬虔さを真似ようとはしない。またキリストの目が常に注目している方向にちょっと一べつを注ぐだけである。ある人は教会の中でさえもこの敬虔さの欠けていることに気付く。あらゆるところで，彼らが気に入ったら教会に集っていようがいまいが電車について話し合うのと同じような気持で神様の家について論ずる人々がいる。いつも教会に集う人々でさえも祈りの家における彼らの不尊な態度によって時々人を驚かし衝撃を与えている。このような人々は無学な人でも野ばんな人でもない。ただ敬虔の徳についてまだあまり知っていないのである」。（人生の宝 P.262—263）

なぜこの敬虔さが明らかに衰微の一途をたどっているのでしょうか。アレクサンダー・マクラーレンの述べている助言から引用してみますと「見かけよくかざりたてたおもちゃやガラスのビーズを沢山持っている手は永遠の富をつかむことは出来ない。そしてぎらぎら輝く光にならされている眼は星を一杯たたえた紫色の天を仰いだ時に，ただ暗やみしか見ることが出来ない」。さまざまな形の悪を迎合したり，世の中の仕事で勝手気ままに振舞うと高貴なまた高潔なものに対する感受性が鈍くなります。

これらのことが敬虔さを破壊してしまいますから，どうしたら私達は敬虔さを発展出来るでしょうか。マッケイ大管長は「信仰深い心は私達の生活に敬虔さをもたらすのに大きな助けとなるであろう。」と助言しました。神様に対する敬虔な心は神様との真の関係をつくる時に生じます。勤勉な研究と心からなる祈りによって，青年男女の皆さんがこの真の関係を樹立することは真にすばらしいことであります。

ジョン・ラスキンの「何をあがめるかを知らなければ，あらゆる本当の喜びや進歩の力は生じない」という言葉はこの問題の実に重要な点を指摘しています。

私達は偉大な人生の霊的な事実を敬虔な心をもって行なうことが大切であると解るように私達の目を開いている心要があります。

婦人の皆さんへ一言

エマ・レイ・リッグズ・マッケイ

マッケイ姉妹は日の光となり，彼女を個人的に知る人々彼女を予言者の妻として知り彼女から力をいただく人々の希望の光となって来られました。私たち全てが尊敬するマッケイ姉妹ほど妻として，母として立派な方は他にありません。楽しい日，晴れた日も，暗黒の日も，マッケイ姉妹は強い信仰と幸せを維持して来られました。次に載せる文はマッケイ姉妹がブリガム・ヤング大学で女子学生に話された中から抜粋したものです。

夫と妻の態度

女性が良き妻，良き母となる資格は多くあげられますが，一番重要なものは忍耐です。子供や夫の気質，誤解，欲求，行ない等に対する忍耐です。

女性は愛を示す男性と交際しても，男性を理解していません。このことが二人の不和，心痛，誤解の重大な一因となっています。「男性の愛は生活の一部であり，女性の愛は全てである」ことを婦人たちが理解しさえすれば，と思います。

男性は女性と違っていますから，男性を知るだけでなく，彼にあわせることが大切になってきます。

家庭の平和は本当に婦人の責任です。あなたが幸福を望むなら自分でそうなる様努力しなくてはなりません。変らぬ親切と愛と犠牲の精神を持ち，よろこんで助け仕えて，自分でその代価を払うのです。家長の望みはあなたの望みでもありますから，彼の望むことを喜んで行なわなくてはなりません。また知恵は九割の沈黙と一割の機知によって生じることを常に心しなくてはなりません。

憂うつな様子をしていると人々はあなたから離れてゆきます。憂うつは気分が傷ついているのを表わすことによって生じます。人は他の人と交わらずに生活できませんし，心をいらだてないで生活することもできません。私たちには外からの挑戦があります。問題はそれがやって来る時にどう対処するかです。私たちが傷つけられるのはどうにもできないとはいえ，傷つけられたことを表わすかどうかは私たちしだいです。

夫が私たちの気持を傷つける場合の十中の八九までが知らずにしてしまっているのであり，自分の与える傷がどんなものかを知らないでいるのです。私たちが荒い言葉を口にせずほほえみをたたえて自分達の仕事に精を出したら全ての問題は消えてしまうでしょう。けれど傷を受けた時にいつも騒ぎ立て，いら立つなら事態は悪くなるばかりです。

いらいらや喧嘩の原因の一つに夫を非難する事があります。夫は妻から非難されるのをたえ難く思うものです。それは愛をおさえてしまいます。

末日聖徒の結婚は神権をもつ男性が家長であることを教えます。従属的な立場を嫌うご婦人もいますが，夫が子供の目

の前でさげすまれては神権に対する尊敬の念を子供に教えることは不可能です。家長にふさわしい夫であれば，妻は彼を尊敬し助けて行くべきです。

両親の子供に対する態度

子供が二，三才の幼い時に夫に従順でない母親はその子供が成長するにつれて悩みが多くなります。

子供をしつけるのに最もよくないことは恐怖を与えることです。それは無益で害があります。子供はほめられなくとも当り前の事を行なうように教えなくてはなりません。なぜなら子供はほめられるためにものごとを喜んで行なうものですから。家庭は両親が従順，正直，忠実，誠実，勇気，真の尊厳と礼儀のうちに導き教える場です。子供には皆同じ愛情をそそぎ子供をだますことは決してしないで下さい。

子供同志の態度

喜びと楽しさは家庭の平和にとって最も大切です。家庭は楽しく，心地良くなくてはなりません。静まり返った家庭は退屈でみじめで家族を憂うつにしてしまいます。音楽は心を楽しくするものです。音楽には必ずしもお金が必要なわけではありません。気むづかしい子供に悩む多くのお母さん方はやさしく歌を歌って子供の心を柔らげることが出来ます。

子供を心おだやかに楽しく育てるには，自分が子供の様になっていっしょに進歩成長してゆくことです。「低俗な家庭から高潔な国家，不幸な家庭から幸せな国家は決して育ちません。

こうして私は扶助協会を知った

リクシン・イーガー

三，四日前トーマス監督は私に話がしたいから事務所へ来てほしい旨を電話して来られました。私が家族の者に二，三十分家をあける事と，どこへ行くかを伝えると十才になる娘は，「すてき，私達のプライマリーの先生がいないから多分その先生になるんだわ」と言い出しました。

私が髪を整えている間中，娘はクラスを教える楽しさとか，むずかしさについて話し続けていました。私が監督との話を終えて家に戻り家族の者に扶助協会のクラスで教える事になったと話すと，その十才になる娘は，「それは不公平だわ，扶助協会の人達はみんななんでも知っているのに……」と不平そうでした。

私は今，扶助協会の重要性と価値に対して証を持っておりますが，過去の証はいつもこうではありませんでした。私がどうして扶助協会に熱心になれたかをお話ししましょう。

十八才で結婚した時，私は扶助協会に出席する機会があったのに，出席しませんでした。扶助協会に出席するのはよいことに違いないとは思いましたが，私はなにぶんにもまだ十八才の若年でした。２つの理由で扶助協会に出席するのを躊躇していたのです。一つは，扶助協会は教会福祉の裁縫にだけ奉仕している会だと考えていたこと，第二に姉妹達は扶助協会で仕事をしている間中世間話に時間を費しているのではないかとの思わくからでした。私の住んでいる小さな町で何が会話の対称になるのか当時の私には本当に判りませんでした。年がたつにつれて私はさらに無関心になって行きました。記憶する限りで，私は自分自身の人生に二つの主な目標を置いて生きて来ました。一つは，大勢の子供を育て，彼らを立派に教育する事であり，今一つは，自分自身が出来るだけ教育を受ける事です。

結婚して最初の六年間私は五人の子供に恵まれ，喜びに満ちた生活をしていましたが，その頃から不満の様なものを感じ始めました。それは，私にはひき続いて学ぶべきものがないということに気づいたのです。子供が小さいので夜学には通えず，毎日家事に追われている状態でした。その間，扶助協会の方々が毎月訪問して集会に出るよう勧めて下さいました。私はその頃，集会に出席することが今の自分に必要なのだと心に強く感じていました。ある日，扶助協会の会長さんがおみえになり集会で歌を歌って下さいと言われて，私は扶助協会へ行きました。それはこれまで私が知らなかった経験でした。クラスの教師とレッスンは素晴しく，私は感動してしまいました。知識を得る道がある事を知ったのです。それ以来私は扶助協会に加わり，クラスのある前には必らず勉強する様になりました。私は最初個人的な知識を得る目的で出席し始めましたが，間もなく一人の良き妻，良き母になろうという目的で学ぶ様になりました。そして子供達が肉体的のみならず，生活の全ての面で成長出来る様に助けるという目的で学びました。私は自分が，母としていかに期待されているかを理解出来ました。もし私がこの事に気が付かなかったらどうなっていたことでしょう。私の向学心は実に家族の向学心を促進させる結果となりました。

四年前，私はワード部の扶助協会々長会に召されました。自分の家族以外の人達に仕えようという希望が知識欲を増し広げて，奉仕の喜びをもたらしました。

私は数度にわたって次の様な事を聞いたことがあります。一人の婦人が集会に忠実に出席し，学課を学び，教えを生活にとり入れようとする時，彼女は大学教育と同等の教育を教会から受けることが出来るということです。その人は女として，母として，また職業人として立派に合格する知識と知恵を学ぶことが出来ます。

私は，末日聖徒の婦人は全て扶助協会に出席すべきだと思います。それによって，子供を育てる母の手はより強く，より優しく，しかも安定した手となります。これが私の心からの信仰と証です。

日曜学校

人を不死不滅なものにする教師

大管長 デビドO.マッケイ

教師のみなさまあなたがたは子供たちの「育ての親」である。多くの子供は，家庭でよくしつけられている。しかし，宗教的なことや徳高いことを，家庭ではほとんど学んでいない子供たちもあり，また主のみ名をおろそかにする家庭で育つ子供たちもある。そうであると考えたくはないが，それは否定できない事実である。こういうわけで教師は，しなくてはならないことだけでなく，してはいけないことをも教える必要がでてくる。

人の努める事柄や人の心の花園には，花や有益な植物といっしょにとげやあざみもある。

教えるあなたがた……あなたがたは偉大な教師ではないかもしれない。また，レッスンを論理的に，思うように感銘深く教えることができないかもしれない。しかしどんな教師でもこのことはできる。すなわち，よく祈り，愛する生徒の心に触れたいという願いに誠実な教師であること。これが，もっともよく教えることのできる方法である。子供や青年はおもしろいレッスンの言葉よりも，教師の人柄に強い印象を受けるものである。あなたは信じていることを教え，クラスの生徒がそれを信じ，それに従って生きるよう望んでいるであろう。あなたは種をまき，それを育てる。その種はやがて神のみ手をひらくのである。

あなたのクラスに，将来の科学者や偉大な彫刻家，政治家宣教師がいないとどうして断言できよう。ジョン・トレビニウスは地味で古いタイプの教師であったが，クラスの少年少女を将来の紳士淑女として，敬意をもって接していたことが記されている。彼は，また，いたずらっ子の生徒たちも「偉大な詩人や教師や哲学者にならないと誰れが言えよう」とつねに語っていた。彼のクラスの太った腕白小僧が，後にボームズ会議で「良心」を語ったマルチン・ルターだったのである。（ボームズ会議は1521年にドイツ，ライン河のほとりで開かれた会議で，その時ルターは異端者と宣告された）

「私は，聖典（の証）やはっきりした理由で確信する以外には，どんなことをも取消そうとは思いません。なぜなら，良心に反することは正しくも安全でもないからです。これが私の主張であります。ただこれだけなのであります。神よ助けたまえ。アーメン。」

健全な文学を味わう

週に一回かそれ以上，あなたがた教師は，生徒たちに清らかなものに触れる機会を与えなさい。彼らが，神の御名を汚す本や人生の裏通りをにおわせる本など，不道徳でよくない物語を察知してそれをさけることができるように，健全な文学という糧を彼らに与えなさい。若人たちが文学や人生の最上のものを味わい，喜びとできるように最善をつくしなさい。今日，若い人々の間にはあまりに多くの低俗な本やパンフレットが流布している。

このことについては，ジェームスL．ゴードンが「若人とその問題」という本の中で，次のように言っている。「多くの若人が心の食物にも低俗で不道徳な本を選ぶのはなぜであろう。それに対して一人の著者は，『それが事実だからだ』と答える」。ゴードン氏はその言葉にこう答えている。「裏道に死んだ犬がいて，ぞっとすることも確かにある。しかしそうだからといって，それを食器だなにのせる理由はない。『死んだ犬』のような文学が人々の家庭や心の中に多く見いだされるが，それは早く深く埋めてしまわなくてはならない」。

私は教師たちが大好きである。すべての中で，教師はもっとも気高い職業であると考える。

レンガを積み上げる

教師が不死不滅の神殿を築き上げるためのレンガとは，レッスンで教える真理や美徳や理想，あなたが生徒の心に与える感銘である。「レッスン」という言葉は学んだり，教えたり，割当てたりすることがらを意味する。ここで教師がクラスの生徒に教えるために準備する完全な計画について触れてみよう。レッスンに関連して，不死不滅の人を育てあげるための方法としていくつかの事柄をあげるが，どうか私を理想主義者であると考えないでいただきたい。

教師が知っていなくてはならないレッスンの原則は4つある。準備，説明，実例，応用である。最近の教会のテキストは，すべての本の各レッスンがこの4つからなっているので，私は非常にうれしく思う。

準備するには，まずテキストがなくてもその内容をくわしく描けるほどによくレッスンを学ばなくてはならない。その

レッスンは著者が書いたものであり，著者のレッスンである。だがそのレッスンはあなたのものになっているであろうか。もしあなたが子供たちにレッスンを読んでやるだけなら，そのレッスンはあなたのものではない。テキストにあることを読み，その言わんとするところに到達して，そのレッスンをあなたのものにしてしまいなさい。

新鮮な泉から水を飲みなさい

かつて私は，忠実ということについて，テキストによって用意したレッスンをしている教師を見たことがある。レッスンの題はエステル女王で，それは美しいレッスンであった。しかし教師がテキストを読み，テキストを手にしている間は，そのレッスンは彼女のものでなかった。その教師は旧約聖書のエステル記を引用した。それが新鮮な泉から水を飲むことなのである。なぜなら，教師が考えていたアハシュエロス王やモルデカイやエステル女王が宮殿にいる理由や，とらわれているユダヤ人に対するモルデカイの関心や，ハマンの悪意などがすべて形をとって理解された。この劇的な話は教師のものとなったのである。

次にこの教師は，この偉大な女性の忠実さを生徒がよくわかるように，レッスンを展開した。まず教師は一枚の紙に，レッスンから学んだ事を書き，それからこのレッスンのテーマである。「忠実」という言葉を示して，それを表わす次の4点を説明した。

1．ヘブル人に対する恐ろしい法令。それは何か。当時，少年少女も悪人によって死刑を宣告されたことを子供たちに教えることができる。
2．荒布をまとい灰をかぶり門の所で女王に次のように訴えたモルデカイ。「何とかして，この恐ろしい法令から私たちを救ってもらえないか」
3．女王の苦しみ。「もし私が呼ばれもしないのに王の所へ行けば，死刑にされるでしょう」。それは古代ペルシャのおきてであった。しかし，エステルは言った。「どうか断食して祈ってください。もし私の命がヘブル人に必要であるなら喜んで捧げましょう」。何というすばらしい場面であろう！

そしてその結果がでた。

4．王はエステルのけなげさと美しさを賞め，イスラエルの子孫であるヘブル人たちは救われた。

このようにして，レッスンは教師のものとなり，言わんとしていることを教師が体得したために，生徒たちによいレッスンを教えることができた。生徒の心をつかみたいならば，レッスンを準備する精神はこれである。

育ての親

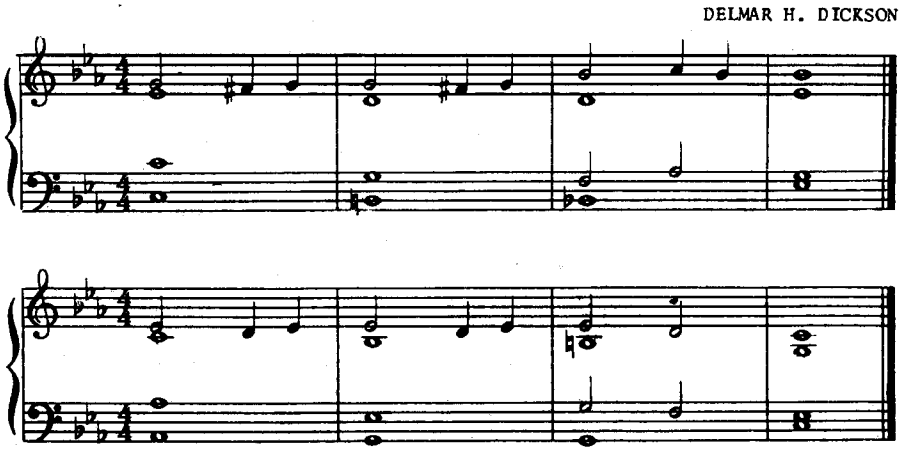
次に教師はテキストに戻って，レッスンをどのようにして応用すべきかについて触れたのである。「あなたがたは両親に忠実ですか」，「あなたがたは国の法律を守っていますか」，「あなたがたは教師の教えを忠実に守っていますか」，「どのようにしたら忠実になれますか」。このように教師はテキストにある質問を生徒たち一人一人に投げかけながら，彼らの生活における忠実ということを実際に理解させたのである。

このようにレッスンを用意することは喜びであるばかりでなく，心を進歩させるものでもある。

それぞれのクラスにあって，あなたがたは教師として，子供や青年の心に真理をうえつける責任がある。すなわち，それぞれ不死不滅の神殿を築き上げるレンガを積み重ねるのである。

これら青年の「育ての親」として彼らを教え導く特権を得ているあなたがた教師に，心からおめでとうと申しあげる。

生徒を不死不滅にまで高めるために，神が霊感をそそいで下さるように。教師のみなさま，あなたがたの召しは何と大切なことであろう！

あなたがたが教師の召しに誠をもち，神の御業を進めるこの責任をいつまでも受けていたいと感じることのできるよう，神が助けて下さるように。

11月の聖句

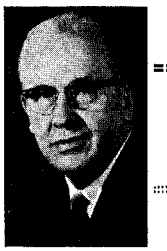
大人日曜学校

わたしのいましめは，これである。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。　ヨハネ15：12

子供日曜学校

愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は，神から出たものなのである。すべて愛する者は神から生れた者であって，神を知っている。　Ⅰヨハネ4：7

賢明な委任



エズラ・タフト・ベンソン

「委任」という言葉は広く用いられ，また一般によく理解されている。今日その言葉は，いろいろ異なった意味を持ち，重要性も増し，その範囲も広がって来た。

我々のいう「委任」とは，神権の権能による教会においての委任である。

主は組織の概略，目的，目標等を与え給うたが，その実施は我々に任せておられる。この故に，コリレーションプログラムや指導者養成が意義を持つのであり，責任を賢明に委任することのような種々の問題を研究する必要が生れる。時がたつにつれて，コリレーションプログラムや指導者養成の重要性が認識されてゆくであろう。

我々はみなパウロの次の言葉に感銘をうけるであろう。「そして彼はある人を使徒とし，ある人を予言者とし，ある人を伝道者とし，ある人を牧者，教師として，お立てになった。それは聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ，キリストの体を建てさせ，わたしたちすべての者が神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し，全き人となりついに，キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」（エペソ　4：11～13）

これこそ我々の務め，我々の責任である。それは神権の命ずるままに神権によってなされるものである。

これは我々が働くための神の組織である。その組織にあっては，あやまちや弱さがあるにもかかわらず，御父の愛したもう子供たちが，自らすすんで働いている。我々が委任されて業を行うにあたっては，力も強制もきょう迫もあってはならない。賢く委任の業を行うためには，たずね求めて，「みたま」をいただかねばならない。「みたま」無しには，我々はまごつき，失敗し，決定も助言も，確信をもってすることはできない。賢明に委任するためには，主の言われたように福音を説くと同じ「みたま」を必要とする。

「この故に，主なるわれ汝らにこれを問う。そもそも汝らは何のために聖職の按手任命を受けたるか。真理を教えんために遣わされたる『慰め主』すなわち『みたま』によりてわが福音を宣べんためなり……。この故に真理の『みたま』によりて教えらるるままにこれを受くることを汝ら知りて覚り得ざるは何ぞ。この故に教わる者も受くる者も互いに相悟り両者共に徳に導かれて共に悦ぶなり。神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うこといよいよ久しき者は，その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついには完き昼となるべし。」
（教義と聖約　50：13～14，21，22，24）

委任を立派に遂行するには，福音を立派に説き教える場合と同じく，祈りによる準備が必要である。教義と聖約42：14にそれが明らかにされている。

「この『みたま』は，信仰の祈りによりて，汝らに与えらる。而して汝らもし『みたま』を受けざる時は教うべからず。」これに，「『みたま』を受けざる時は委任するべからず」とつけくわえることができよう。

「すべからく心をつくし，勢力をつくし，思をつくし，体力をつくして」神に仕えつつ（教義と聖約４：２）この同じみたまによって，我々は世の善人，賢者の助力を求め得るのである。教会組織外においても人事管理の責任委任という分野では見るべきものが多く，種々の手順や方法，原則等が試みられて来た。その多くは，「みたま」が加わった時に大いに有用である。二三の例をあげよう。

1．良い経営法とは，委任する力を意味する。
2．仕事の一部を委任することは自分のためにも組織のためにもなる。
3．よい経営とは自分のような人々をふやしてゆく技術である。
4．委任する仕事は，自分が最も得意とするものである。
5．時間，距離，人間的制約，仕事の種類等により，一人の責任者に直属する部下の人数は限られる。
6．権能と責務は委任できるが，自分でとるべき責任は人に委任できない。
7．さらに大きい仕事に最適な人は，自分の後任を訓練している人である。
8．委任が失敗するわけは，
　充分に任しきれない
　お決まりの委任
　連絡網がゆきとどかない

仕事が何かはっきりしない
仕事をやり通させることができない
仕事に必要な権能の委任が不十分
委任の範囲が狭すぎる
誤りを許容してやらない

以上は実業界，産業界から知ったことの数例である。教会の内外を問わず，賢明な委任には福音の精神である黄金律が用いられることは，経験が増すに従っていよいよ明らかになる。恐怖心は非常に強い動機づけであり，独裁制度下で常用されて，早い反応が得られるものである。しかしマイナスの面としては，恐怖によって度を失い，集中力をなくして仕事の能率の下ることが挙げられる。

特に教会においては，命令よりも依頼の方が好結果を生むし，感じもよい。また理由を必ず明らかにすることである。仕事の進展状況を見守り，ささえて，指示通りよくなされた時は感謝を表わし，時に応じて信頼の念を伝えることも肝要である。命令が失敗した時は，反省してどこでまちがったかを究明し，自分のまちがいを認めるにやぶさかであってはいけない。教会の会員は自発的に自由意志によって働く人々であることを忘れてはいけない。彼らも神とその御業を愛している。彼等を愛し，感謝しなさい。仕事仲間を非難したい時もあろうが，それはしないことである。そのかわり興味をひくチャレンジを与えて背中の一つも軽く叩いてやりなさい。地上にある神の子供達は本来善であることを忘れてはいけない。神は彼らを愛し給う。我々も彼らを愛すべきである。

ある人々が委任に失敗するのはなぜだろうか。その主なものは次の様である。

1．部下には仕事がこなせないと思う。
2．部下が自分とはり合うのではないかと恐れる。
3．自分の信用や功績がなくなりはしまいかとおそれる。
4．自分の弱点が明らかになるのではないかと思う。
5．仕事を任せて十分な訓練をする時間がないと思う。往々にして怠けていてそう思うことがある。賢明に委任するためには時間がかかるものだが，結局は時間の節約となり，人々は立派に成長して生産は増大するのである。

委任の時には，人々に近づく絶好の機会がある。人々をはぐくみ，必要な忠告と指示を与えるのである。

マークという私の息子は，責任委譲の大切な原則を六つ書いて送ってよこした。

1．委任すべき仕事をえらび，その仕事を任せる人のために，それを整理する。
2．適材適所
3．その仕事にえらばれた人の準備と動機づけ。
4．仕事を割当てて十分に理解させる。
5．独立心を与える。
6．監督するのを忘れない。手綱を放さないこと。

セオドア・ルーズベルトは言った。「すぐれた管理職にはしてほしい仕事のために適材をえらぶ感覚と，彼らがその仕事をしている途中で，干渉しない自制心が必要である。」

しかし，どんなに役に立つこの世の助言であっても，愛の父の偉大なご計画である聖典に書いてある例や教えにまさるものはない。なんと印象的なうるわしい教えが語られていることであろう。多くの中からそのいくつかをあげてみよう。

この世は委任された権能によって基をすえられた。イエスは，地上における御自身の使命は，委任された権能によるものであると，いくども仰せになった。また教会の回復の初めは権能の委任だったのである。

会堂でユダヤ人に向ってイエスは御自身が天父からつかわされたことを宣べたもうた。

「わたしが天から下って来たのは，自分のこころのままを行うためではなく，わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである」（ヨハネ　6：38）

今日イエスに仕える指導的立場にある人々に対して，委任を賢明に効果的に行なうための教えが少なくとも八つあるがそれについて考えてみよう。

第一，イエスがお建てになった組織（教会）は委任された権能によってつくられた。

イエスの時代も，今日の回復された教会もこのことに変りはない。イエス・キリスト教会は，人々に権能を委任することを通じて指導者を育成する。イエスの時代，教会をつかさどるキリストを助けるために十二使徒が召された。また，七十人も召された。キリストは他の人々に委任したもうたのである。キリストの教会に傍観者がいてはならなかった。すべての者が御国の建設に携わったのである。彼らは御国を打ち建てると共に，自己をも打ち建てたのであった。

イエスは，個人個人を昇栄に導くことを目的とされた。モーゼとかの山上で会われた時，主の御言葉は，「見よ，これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命

とをもたらすなり。」（モーゼ　1：39）であった。

イエスの目的はすべての人を王とし，永世にわたる指導者とすることであった。最後の晩餐の記念すべき夜，ユダが自分の悪しき役割を果たそうとして抜け出してから，残りの11人に向ってイエスは云われた。

「よくよくあなた方に云っておく。わたしを信じる者は，またわたしのしているわざをもするであろう。そればかりかもっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」（ヨハネ　14：12）

イエスは委任によって，個人を抑圧するのではなく，かえって高めようとされたのである。

第二，委任するにあたり，イエスは容易な仕事でなく，かえってやりがいのあること，チャレンジのある仕事を任せられたのであった。

ペテロは豊かな漁師であった。彼が召されたのは仕事をすてて伝道者になるためではなかった。マルコはその召しを次の様に述べている。

「さてイエスがガリラヤの海べを歩いて行かれ，シモンとシモンの兄弟アンデレとが海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた『私についてきなさい。あなたがたを人間をとる漁師にしてあげよう』。すると彼らはすぐに網を捨てて，イエスに従った。」（マルコ　1：16〜18）

同様に，七十人を伝道に召すに際しても，イエスはその仕事を興味深く述べておられる。

「そのとき彼らに言われた，『収穫は多いが働き人が少ない。だから収穫の主に願って，その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。』」（ルカ　10：2）

しかしイエスはその仕事を容易なものとはなさらなかった。彼らが出発する時には，実際にこういわれた。

「さあ，行きなさい。私があなた方をつかわすのは，子羊をおおかみの中に送るようなものである。財布も袋も靴も持って行くな。だれにも道であいさつするな。」（ルカ10：3〜4）

第三，イエスは責任を委ねるに当って，その務めを，召された者に完全にお教えになった。

イエスは召された者が仕事をできるように，彼らを助けて準備をされた。ジェームズ　E．タルメージ長老の「キリスト・イエス」の中で次の様に書かれている。

「聖任後の一時期を使徒達はイエスと共に留り，来るべき業のために特に訓練と教えをうけた。やがて彼等は各々務めを明示されて，神権の権能を以て行うべく，伝道に出たのであった」（キリスト・イエス）

第四，イエスは，天父から御自分が頂いたと同じ信頼を委任された者にお与えになった。

少くも三べん，天父がイエスについて次の様に云われたことは意義深い。

「これはわたしの愛する子，わたしの心にかなうものである。」

イエスは，御父と同じように委任された僕たちを信頼をこめて送り出された。例えば七十人にこう仰せになった。

「あなたがたに聞き従う者はわたしに聞き従うのである。」（ルカ　10：16）

今日の教会においても賢明な管理者は，何でも自分で行なう余りに，他人は資格がないという印象を与えたりはしない。そして他の人に仕事を委ねる時は，自分がその人を十分に支持していることを示すのである。

エテロはモーゼに何でも自分一人でしないようにと，大事なことを教えた。賢明な権能の委任と責任を広く与えて人々を養成し，モーゼの負担を軽くすることについてのエテロの忠告に耳をかたむけなさい。

「モーゼのしゅうとは彼がすべて民にしていることを見て言った。『あなたが民にしているこのことはなんですか。あなた一人が座し民はみな朝から晩まであなたのまわりに立っているのはなぜですか。』モーゼはしゅうとに言った。『民が神に伺おうとして私の所に来るからです。彼らは事があれば私の所にきます。わたしは相互の間をさばいて，神の定めと判決を知らせるのです。』

モーゼのしゅうとは彼に言った，『あなたのしていることは良くない。あなたも，あなたと一緒にいるこの民も必ず疲れ果てるであろう。このことはあなたに重過ぎるから，ひとりですることができない。今，わたしの言うことを聞きなさい。わたしはあなたに助言する。どうか神があなたと共にいますように。あなたは民のために神の前にいて事件を神に述べなさい。あなたは彼らに定めと判決を教え，彼らの歩むべき道を，なすべき事を彼らに知らせなさい。またすべての民のうちから有能な人で，神を恐れ，誠実で不義の利を憎む人を選び，それを民の上に立てて，千人の長，百人の長，五十

人の長，十人の長としなさい。平素は彼らに民をさばかせ大事件はすべてあなたの所に持って来させ，小事件はすべて彼らにさばかせなさい。こうしてあなたを身軽にし，あなたと共に彼らに，荷を負わせなさい。あなたがもしこの事を行い神もまたあなたに命じられるならば，あなたは耐えることができ，この民もまたみな安んじてその所に帰ることができよう。』

モーゼはしゅうとの言葉に従い，すべて言われたようにした。すなわち，モーゼはすべてのイスラエルのうちから有能な人を選んで，民の上に長として立て，千人の長，百人の長五十人の長，十人の長とした。平素は彼らが民をさばき，むずかしい事件はモーゼに持ってきたが，小さい事件はすべて彼らみずからさばいた。こうしてモーゼはしゅうとを送り返したので，その国に帰って行った。」（出エジプト　18：14～27）

第五，イエスは召し給うた者たちに御自分の誠実を約束され，またそれを彼らにも望まれた。

この誠実，忠誠の問題は大いなる原則である。幾年か前のこと，私はフィラデルフィアの一ホテルで農業界及び実業界の指導者と会合したことがあった。夕涼みがてら手紙を出しに郵便局に行った時，窓の外から聞きなれたモルモンの讃美歌が流れて来た。恐らく街頭集会だろうと思って，投函をすませてから，窓辺へ行って外を見ると，案の定，黒っぽい洋服を着た若者が二人階段のはしに立っていた。歌い終えると一人が話を始め，もう一人は片手にモルモン経やチラシを持ち，もう一方の手に帽子を二つもっていた。

集会が終ったので，私は出て行って本と帽子を持って立っていた男に近ずいて言った。「同僚が話している間，君は何をしていましたか。」

その立派な答を今でもよくおぼえている。「ベンソン兄弟，私は祈っていたのです。聴いている人の心を打つ正しいことを同僚が言う様にと祈っていたのです。」忠実と援助，互いの援助こそ実に無限の価値がある。

イエスは天父と一つであることを十一人の弟子達にお話しになった。「このわたしが父におり，父がわたしにおられることを信じなさい。」（ヨハネ　14：11）イエスはまた，指導者である御自分に対する忠実さをお求めになった。「もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである」。それから御自身が彼らに誠実なことを再び強調された。

「わたしはあなたがたを見すてて孤児とはしない。あなたがたのところに帰ってくる。」（ヨハネ　14：18）そして「わたしの平安をあなたがたに残しておく，わたしの平安をあなたがたに与える。あなたがたは心を騒がすな，又おそれるな」（ヨハネ　14：27）

すぐれた指導者なら，自分が委任した人との忠誠を当然期待し得るはずであり，そして自分も誠を尽すのである。自分が仕事を与えた者を支えて，その真心は単に務めを要求すること以上に及ぶのである。自分と共に仕える人々の名誉をよろこび，それらの成功を誇りとする。また人の決定を変更する時は，必ず予じめその人と相談をするし，他人の前で人を辱しめたり困らせたりしない。卒直であり，かくしごとをしない。

第六，責任を与えた者にイエスは多くを期待された。

昇天に際して，イエスは十一弟子に命じられた。「全世界に出て行って，すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」（マルコ　16：15）

今日の教会では，一般に指導者は自分が期待するものを人々から得ることができる。彼は委任をするに際して，考え方を高く持たねばならない。主の御業にある彼らには普通一般の責任よりも大きな力があることを委任する人々によく知らせなくてはならない。主の御業にあって人が最善を尽すとき失敗の余地はない。

それは主の御業であって，人は道具にすぎない。主の教会主の福音の計画なのである。共に働く人々は主の子等である。我々がその分を果す時，主は決して我々に失敗をさせたまわない。必要とあれば，才能や能力以上にその人を大いなる者とならしめ給う。私と同じく，あなた方もこの経験がおありと思うが，これこそ，最もうるわしい経験の一つである。

昇天まぎわ，最後に十一弟子にむかってイエスはおごそかに言われた。イエスの御言葉，「ただ聖霊があなたがたに下る時，あなたがたは力を受けて，エルサレム，ユダヤとサマリヤの全土さらに地のはてまで，私の証人となるのであろう。」（使徒　1：8）

ジョン・テーラー大管長は言った，「立派な仕事を見て人々が尋ねることは，所要時間ではなく，誰がそれを為したかということである。」

教会ではいいかげんに仕事をする余地はない。有能な指導者は立派な仕事を期待し，期待していることを仕事を委せた人々に知らせるのである。

第七，イエスは仕事を与えた人々から報告と提案を聞きたもうたようである。

これはマルコの言葉に示されている。
「さて使徒たちはイエスのもとに集って来て自分たちがしたことや教えたことを，みな報告した。するとイエスは彼らに言われた。『さあ，あなたがたは，人を避けて寂しい所へ行って，しばらく休むがよい。』……」（マルコ　6：30〜31）

イエスは使徒達の報告を受けられただけではなく，思いやりを示された。彼らに多くを期待し給うたが，決して奴隷のように働かせはされなかった。骨の折れる働きを終えた使徒達に「人を避けて寂しい所へ行って，しばらく休むがよい」と仰せになったのである。良い指導者は，よい考えはみな自分で考えられると思ったりしない。自分の指導下にある人々からも，提案をあおいで，事の決定に際して彼らも大きな役割を果していることを自覚させる。そして彼らに，指導者たちの計画を行なっているのではなく，我々の計画を行なっているのだという気持を感じさせる。

教会のホームティーチング計画は，責任を与えた人々から提案を聞くためのすぐれた方法である。ホームティーチャーは家族から提案を聞く。神権指導者はホームティーチャーからそして監督は神権指導者から，ステーキ部長は監督から，それぞれ報告と提案を受ける。指導者はこの様にして有用な考えをいろいろ得るのみならず，自分の指導下の人々をいつもよく把握できるのである。

第八，指導者は，責任を与えた人の進歩に従い，時に応じて，愛の精神による賞讃と叱責を与えるべきことをイエスは教えられた。

タラントのたとえの中で主は言われた。「良い忠実な僕よ，よくやったあなたはわずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」（マタイ　25：23）

指導者は，責任を与えた人とその責任を忘れないものである。関心をもって見守りはするが，「余計な口出し」はしない。必要に応じて賞讃を与え，機に応じて励ましを与える。仕事が不十分で変える必要のある時は勇気をもって断固行動するが，親切を忘れない。責任の期間が終った時は，その業蹟に感謝の意を表わす。

しばしば批判されるよりもつらいことは自分の仕事について指導者から一言もないということである。心らかの適切な意見や言葉は，非常な励ましである。

時間が許せば，ジョセフ・スミスと後継者達の立派な委任の模範をふり返ってみるのもよい。また立派な監督，またステーキ部長，伝道部長など我々の兄弟たちの模範を考えてみるのもよい。

しかし，この稿を閉じるに当り，私は「みたま」による委任の重要性を再び強調したい。みたまの代りとなるものはあり得ないからである。この事に関して最も印象的な聖句は，教義と聖約121章に記されている，ジョセフ・スミスがリバティの獄でうけた主の御言葉である。

神の神権について語られた，みたまにあふれた崇高な言葉，まさにふさわしく意味の深いこの御言葉である。
「見よ，召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばることなきは，これそもそも何の故ぞ。その人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり，唯々人間の誉を得ることをのみ望み，次の如き一つの戒めを知らざるによる。曰く，神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして，天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり，と。この権能のわれらに与えらるる事もあらんは真実なり。されどもし己が罪を蔽いかくさんとし，われらの高慢，空き野望を充たさんと企て，または幾分にても正しからざることによりて人の子らを支配し，統御し，強制せんとする時は，見よ諸天は退き去り，主の「みたま」悲しむ。主の「みたま」退き去らば，神権またはその人の権威は終りなり。見よ，その人いまだ覚らざる前，独り置かるるままにとげあるむちをけり，聖徒を迫害し，神々に叛きて闘をなす。われら悲しむべき経験によりこの事を知る。およそ殆どすべての人間は，少し許りの権威を得たりと思うや，忽ち正しからざる支配を始めんとする生れつきの性癖あり，これすなわち，召さるる者は多けれども選ばるる者少き所以なり。如何なる権力も勢力も，神権によりて維持する能わず，または維持すべきものにあらず，ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。また親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。すなわち，聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後，また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。かくて，彼は汝の誠実は死のきずなよりも強きことを知るべし。」（教義と聖約　121：34：44）

委任を賢明に為すべく熱心に祈りをもって努める時，いつもこの忠告とその他聖典の教えに聞き従うことができるようイエス・キリストの御名により，へり下って祈りたてまつる。アーメン。

聖徒の道
1968年11月号　こどものため

ジャンと すてきな馬

クリストファー・フリント

あなたは「すてきな馬」を持っていますか？持っている人も多いでしょう。知っている人はいなくてもこの素晴らしい機械は，最後まであきらめなかったフランスの男の子のおかげでできたのです。どうしてすてきな馬ができたのかについてお話ししましょう。

ニープスさんはフランス国王の相談役をしていました。なかなか怒らない良い人でしたが，たった一度とても怒ったことがありました。庭のことで怒ったのです。彼の庭についてのことでした。

ニープスさんはいなかの家の入口に立って自分の庭をむっつりとながめていました。庭には，折れた木の枠，針，鉄のたが，大工道具，綱などが散らかっていました。美しく小さな庭は物置場みたいでした。ニープスさんはまゆをしかめて，こわい声で呼びました。

「クロード！ジャン！はやくここへおいで！」

茂みの上に小さな二つの頭がみえました。

「はい，お父さん」

「自分のすることはみなきちんとかたずけなさいと言わなかったかね？」

二人の男の子はこくんとうなずきま

ができたら，私たちを新聞や何かにのせてくださるって……」

パットはうれしそうにしゃべっている妹にいいました。

「その紙はいったいなんなの？」

「がし出しの紙よ。ニカソンさんがサインしたの。これをもっていないと資料室に入れてくれないんですって。」

三人はエレベーターにのって二階にある資料室へ行きました。それは大へん長くせまいかんじの部屋で，それでも図書室のように見えました。女の人がドアのすぐ内がわのところの小さなつくえにいました。

パムは紙きれを彼女にわたして，たずねました。「アルブライトさんについての記事を何か見せていただけますか。お願いします。」

その女の人はほほえんで，紙にはんをおしました。そして紙を小さな木のはこの中におきました。「あの大きなテーブルのいすにおかけになって，ちょっとおまちくださいね。あるものをもってきますから。いえへもって行けないことはおわかりですね。ここはふつうの図書館ではないのですから。でも，メモしたければ，してもかまいません。」

図書館員のその女の人はすぐもどってきました。ダニーとパットとパムの前にうすいマニヤ紙のふうとうをおいたので，みんながっかりしてそれを見つめました。

「それだけなの？」とパットは女の人にききました。

「そうです。ご用がありましたら，私を呼んでください。」彼女は自分のつくえへもどりました。

「この中に，なにが入っているか見よう」といって，ダニーはふうとうをあけ，中に入っているものをテーブルの上に出しました。その中に小さな新聞記事のきりぬきが五枚ほどクリップでとめてありました。

「おい！これをごらん！」パットがさいしょのきりぬきをゆびさすと，それには大きな黒い活字でつぎのことが書かれていました。「アルブライトに有罪の判決」その下に，小さい字で「だつぜいしゃに五年禁固」とありました。

「アルブライトさんははんざいしゃだった！」とパムはびっくりして言いました。

「だつぜいしゃってなに？」とパットはききました。

「ぜいきんをはらわない人だよ。ギャングや大きなはんざいしゃはけいむしょに入れられるのだよ。」とダニーは言いました。

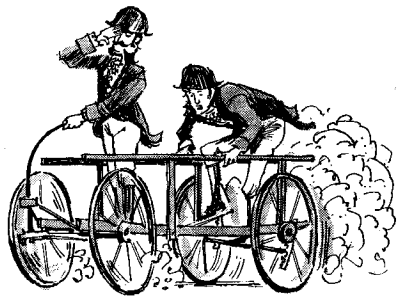
「おどろいたなあ。この事件はだんだんおかしくなるね」とパットが言いました。「ギャングがちょうちょを集めるなんて，きいたことがないよ。」

「ほかになにが書いてあるかな。もしかしたら，ちょうちょについて，なにか書いてあるかも知れない。」

「そうだったの。アルブライトさんがはんざいしゃだったの。ねえ，これが私たちのはじめての手がかりね。」パムは考えぶかそうに言いました。

（つづく）

した。
「じゃ，どうして庭をこんなにしておくのだ。いや，なぜかはわかる。おまえたちはまた，馬のいらない二輪の車を発明しようとしていたのだな」
「はい，お父さん，いつか馬のいらない素晴らしい車を作るんです」ジャンは言いました。
「教会の窓にあるのと同じものです。それよりずっと立派なのです」クロードが言いました。
「そんなばかげたことに時間を使っておまえたちは時間のむだ使いをしている。やめなさいとは言わないが，そんなことで庭をよごされてはこまる。もし庭をよごすなら，車つくりも禁止しなくてはならないな。さあ，かたずけなさい」
クロードとジャンはさっそく，折れたバラの茂みをのぞいてすっかり新しく見えるように，庭をかたづけました。木や道具やいろんなものを集めて捨てました。馬のいらない馬車の発明をやめさせられたくないからです。
二年前，お父さんは二人をイギリスへつれていってくれました。ある日，教会の前を通りかかると，ステンドグラスの窓におもしろいものを見ました。窓には，二人がまだ見たことのないおかしな二輪の乗物に人が乗っている絵があったのです。一番ふしぎなのはその絵の中に馬がいなかったことです。そして，人が足を地面へおしつけることによってその機械は前へ進んでいました。
その絵を見てからというもの，クロードとジャンはじっさいにそんなものを作って動かしたいと思っていました。そして二年間それを作るために，考えつくことをみんなためしてきたのです。何年かすぎて二人が十代の少年になってからもまだ，動物がひかなくてもよい機械を作ろうと工夫を続けていました。



クロードとジャンが十四才の頃，ある日，お父さんが「君たちはもう馬のない馬車のことを考えなくてもよくなったよ。だれかが発明したんだ！」と言いました。
二人の少年はそのすばらしい機械を見につれて行って，とわいわい騒ぎました。お父さんは，しょうだくしました。少年たちが時間をむだにして馬のいらない馬車を作るのをやめると思ったからです。彼らがベルサイユの宮殿につくと，大勢の人々がそこに集っていました。王さまと女王さまは高いと

いたずらかと思いました。しかし盗んだものを調べると専問のどろぼうのした仕事です。」
「子供」と言って，ダニーと友だちがまだいることを思いだした署長さんは言いました。「さあ，これで君たちは行ってもいいですよ。しかし，ダニー君，もしなにか私たちに役立つことを考えついたら，すぐ私にれんらくして下さい。」
「マーテン署長さんのおっしゃるとおりだ。ほんとうにへんだね。古いつまらないちょうちょを盗むなんて……」と，パットがいいました。
「とった人はほんとうにほしかったんだね。だって，ぎんこうごうとうに入ったと同じようなことをしたんだからけいむ所にいれられるのに……。そして，アルブライトさんのちょうちょだけだろう。あのちょうちょがどうしてそんなにじゅうようなのかな」
「アルブライトさんにききに行こう。知っているはずだ」と，パットはいいました。
ダニーは「そんなこと，できやしない。アルブライトさんは死んでいるんだ。だから，博物館に収集をきそうしたんだ。それにアルブライトさんはどくしんで，かぞくがいないよ」と，こたえました。
「アルブライトさんが死んでいても，なにかかんけいあるかもしれないわ。できるだけ調べてみましょう。そうしたら，だれかがアルブライトさんのちょうちょを盗みたかったりゆうがわかるかもしれない。」パムは言いました。
「どういうふうに？」と，兄さんのパットはききました。「アルブライトさんは死んでいて，かぞくがない。じゃだれにきくの？」
パムはちょっと考えました。「としょかんへ行って，古しんぶんを調べることもできるし。でもだめだわ，時間がかかりすぎて……。それに，新聞なんかに出やしなかったでしょう。」
パムは急に明るくなりました。もっとよい考えがうかんできたからです。
「しんぶんしゃへ行って，アルブライトさんについてのきじがあったらたのんでみせてもらえばいいわ。」
「それはいい考えだ！」とダニーはさけびました。「新聞社の図書室にそういういろんなものがあるはずだね！」
「そうだ。図書室と呼ばないで，資料室と言っているよ。」パットは言いました。
「おもしろそうね。」とパムは自分の考えにみんながさんせいしたのでうれしくなって言いました。「それに，なぜあのちょうちょがそんなに大切なのか，知りたいね。」
ブリクストン・ヘラルド新聞社へ行ってから，まずパムを編集者のところへ行かせました。さいきん，パムのクラスで新聞社へ見学に行ったので，彼女をおぼえているかも知れないからです。」
十分後にパムは出てきました。
「もらったわよ。」と，彼女はとくいになって一枚の紙を見せました。
「ニカソンさんは私をおぼえていらっしゃったの。もしこのナゾをとくこと

ころに腰かけていて，すばらしい馬のない機械の到着をいまかいまかと待っていました。その機械はすばらしいどころではありません。みんなはそれを見た時にびっくりぎょうてんしました

人々が機械を見るしばらく前から音がきこえていました。ごろごろという低い音がして，宮殿の遠くの角をまわってやって来たのは，奇妙な，ぶかっこうな乗物でした。

それは馬のついていない四輪車で，前部に乗っている人が操縦していました。後部の人は前に進むために，二つのてこをふうふう言いながら上下にふんでいました。

その夜，ジャンは家に帰って，「お父さんに，クロードと僕がつくろうと思う機械はあんなものじゃないよ。必死になって機械をふんでいた人は疲れきってしまって，人にささえてもらったほどでした。あの人はかわいそうです」と言いました。

お父さんはジャンの見方が正しいと思いました。二人は馬のいらない馬車をつくるため，続けて設計ととり組みました。クロードは，ついにあきらめてやめてしまいましたが，ジャンはあきらめず，大人になってもやめませんでした。

1816年のある春の日，パリの公園で散歩を楽しんでいた人たちは，むこうの方からだんだん近づいて来るひどい砂ほこりを見ました。人々はびっくりしました。いったい何でしょう？近づくに従って，犬は荒々しくほえ，子供たちはこわがってお母さんたちにしがみつきました。おまわりさんは刀を抜いて，まだ砂ほこりの中にかくれている恐しいものに向って，走り出しました。

ようやく砂ほこりが静まったと思ったら，そこには，馬のない機械にジャン・ニースが乗っていました。彼はついにつくったのです！人々にこれが何で，どのようにして動くかを説明した後で，勇かんな人たちは乗ってみたいと言いました。彼らは乗ったあと，すばらしい機械だと言いました。その通りです。誰れにでも，聞いてごらんなさい。

長年かかって発明した，当時の人々がすてきな馬と呼んでいたものは，今日では，自転車として，知られています。

「えっ！博物館でどろぼうが…？みんなに話そうよ！」

「だめだ！言えば，みんな行きたがるし，大ぜいそこら中うろうろしたら手がかりをだめにしてしまうかもしれないから……。」

「そうだなあ。ほんとだね。」とパットはさんせいしました。「でも，ダニー，君ははいれるんだね。君のが盗まれたんだもの。君といっしょだったらパムとぼくもはいれるかもしれない」三人は博物館へ行きました。

彼らはまもなく小さな丘のちょうじょうにやってきました。そこからは博物館が見えます。正面げんかんの前に数台のけいさつの車がありました。彼らは草のさか道をぜんそく力でかけおりて行きました。

自てん車をおりて広い石の階段を急いであがりました。しかし，上にあがった時，たくましいおまわりさんが，彼らをとめました。

「君たち，残念だが，博物館は今日はしまっているよ。」と彼は言いました。

「でもぼくはここで働いているんだ。盗まれたちょうょうの仕事をしていたんだ！」と，ダニーは言いました。

「それなら話がわかる」とおまわりさんはダニーたちをたてものの中に入れてくれました。

かんちょうの事務室に行くと，カーステアーズさんが制服を着た人と話していました。カーステアーズさんはおちつかないようすでしたが，ダニーを見たらわらいかけて，しょちょうにしょうかいしました。ダニーは友だちのパットとパムをしょうかいしました。それからマーテン署長は彼にいろいろの質問をしました。ダニーはできるだけ協力したいと思いましたが，署長さんの表情をみると，むずかしそうに見えました。

「事件についてこの少年もなにも知らないようですね」と彼は言いました。

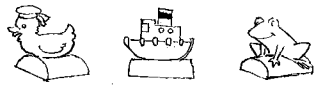
「私もそう思っていました」とカーステアーズさんはダニーの肩に手をおきながら言いました。「署長，ほんとうにふしぎです。今まで，この博物館でこんなことがおこったことはありません。なぜ，ちょうちょなんて盗むんでしょうね？ここにはどろぼうがほしがる高価なものがほかにたくさんあります。どろぼうがアルブライトさんからきそうされたちょうちょだけ盗んだのはなぜでしょう？なぜ，全部もって行かなかったのでしょう？」

これをきいて，ダニーは安心しました。「どろぼうは全部もって行かなかったんですね」と彼はききました。

カーステアーズさんはうなずきながら「それが一ばんふしぎなことです。どろぼうはアルブライト収集にだけきょうみをもっているようでした。他にもっとこうかな標本があったのに…」

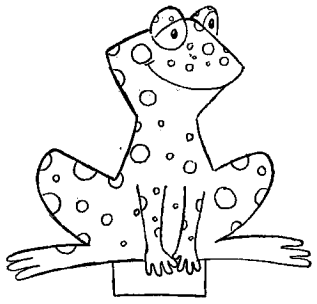
マーテン署長がぶつぶつ言いました「前にも言ったことですが，こんなみょうなはんざいって見たことがない。ふつうのはん人だったらとらえかたがわかっている。だが，ちょうちょなんて盗むはん人なんて……」彼はわからないというように頭をふって言いました。「はじめに，どこかの子供たちの

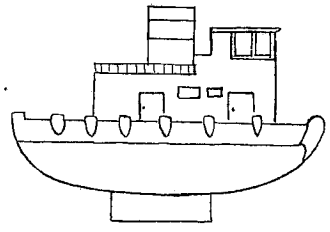
コルクのうき



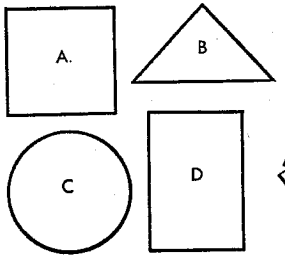
つぎのものをよういして下さい。
大きなコルクのせん。
ボール紙と画びょう。
クレヨンとはさみ。

1．うきにコルクのせんの半分を使います。コルクを半分にきる時，お父さんかお母さんにたのみなさい。
2．切った半分のコルクをたいらな方を下にしてはんたいのまるみのある側の中心にほそ長い穴をあけます。
3．ここにある型を白いボール紙にうつします。
4．うつしたものの両がわとも，防水のためにクレヨンをぬります。
5．つぎにこれをきりぬいて，下のつまみをコルクのほそ長い穴にさしこみます。
6．重くするためにコルクに画びょうをさします。





みち子さんが「だれにでもできるコルクのうきです。おふろの中か，池にうかせるととてもおもしろいわ」と言っています。

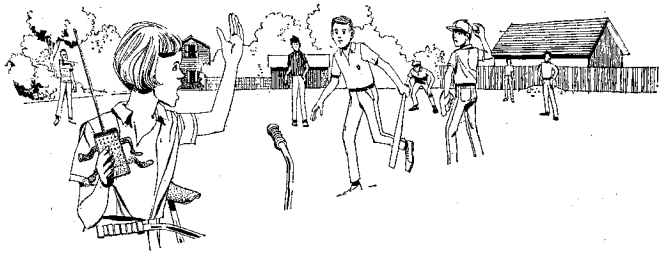


幾何学のいろいろな形

円　——
矩　形——
四　角——
三　角——

じろうを手伝だって，いろいろの幾何学の形を 教えてあげましょう。

ちょうちょ
どろぼうの
ひみつ



第2章　ごうとうじけん

マレー・T・プリンガル 作
チャールズ・キルター 絵

第一章のあらずじ

ダニー・コリンズはまもなく十四才になりますが，大人になったら，博物学者になりたいと思っていました。ダニーは夏休みのあいだにブリクストン博物館に，アルバイトを申し込みました。博物館にきそうされたちょうちょの包をといて標本にできるように整理するのが仕事でした。ダニーはこの仕事を学校で習いました。初めての日がおわって，彼は疲れていても，しあわせな気持ちでかえりました。その時，自分とそのちょうちょにふしぎなことがおこるとはゆめにも思っていませんでした。

第　二　章

木よう日，ダニーは仕事はおひるからにしようと思って，パット・パターソンにあいました。そこで二人はほかの友だちをあつめて，ダニーの家のむこうがわの空地へ野球をしに行きました。

パムもいっしょに，自てん車についている小さなトランジスターラジオをききながら野球を見ていました。

三回のおもてで，アウトになった時ダニーはパムがむちゅうで手をふっているのに気がつきました。

「ダニー！いらっしゃい！早く！早く大へんなの！」

「どうしたの……！」

「ほら！聞いてごらんなさい！博物館のことよ！」彼女がトランジスターラジオの音を大きくすると，アナウンサーが言っています。「……さきほどのお知らせをくりかえします。さく夜，ブリクストン博物館にごうとうがおし入りただいま，けいかんがげんばでそうさしています。在庫品を調べていますがげんざいのところ盗まれたものはちょうちょの収集だけのようです。」

「あ！ぼくのちょうちょだ！」とダニーはさけびました。「早く行かなくちゃならない！」

ダニーは友だちにゲームをつづけられないことを言いにきましたが，パットはどうしてだめなのかを知りたがったので，みんなから少しはなれたところへつれていってせつめいしました。

どんな方法で？

彼女は野良仕事で荒れて固くなった手で炉から豆壺をとり上げた。しかし彼女があげた顔は若かった。「あの方はどういう意味で『許し』ということばを使っているのでしょう。」と彼女は鋭くたずねた。

彼女の父親はその腕をテーブルの上においた。4月の年次総大会に出席するためのソルトレーク市までの遠乗りはたいへんであったが，行く価値のあるものであった。彼は考え深げに額にしわを寄せた。その言葉を正確にとらえることは重要なことであった。「今年は教会設立50年記念の年に当たるので，テイラー大管長はこの年をすべての負債を赦すことの50年記念祭と考えたいのだよ。それは，さかのぼって奴隷や束ばくされたものを自由にせよ。という旧約聖書時代に行なわれていたようなものだと思うよ」。

彼女は父親のためにテーブルの上に豆をおき，それを皿に盛った。小さな男の子たち，ジョセフとベンジャミンはずっと前に食べおわって今はベッドの中なのだが，彼女は帰りのおそい父親のために食物を暖かくしておいたのであった。「私達には，奴隷はいません」といって彼女は横目でみた。

「私達はそれに対して別な解釈をするべきだ。私が覚えているかぎりでは，……『もしできるならば，価値ある兄弟が負債にしばられていたらそれを免除してやりなさい。傷ついたラザロに食べさせるためにそのテーブルから，ただのパンくずしか落さないような富める人が私達の中にいてはならない』とテイラー大管長が言われたのだよ。教会では永住基金の80万ドルにのぼる負債の記録を削除するという模範を示しているところだ。私達はみなその例にならうよう望まれている。」

彼女はちょっと笑った。「私達の中には，たしかに『負債にしばられた』兄弟がいます。だけどその人が，お父さんのいうように値うちがあるかどうかは疑わしいのです。そして，どんなに想像をたくましくしても，私達が富める人と呼ばれることはありません。」

「この勧告は教会のすべての会員にあてたものだ。私達はアロンサン家が負う負債を免除しなければならないと思う。」

「お父さん！」彼女の目は憤りにもえた。「ご冗談でしょう！世界中の値うちのない，怠惰な，とるにたらない人々の中で，アロンサン家はもっとも悪いのです。」

「マーサや，なあ，主は言われたではないか，『人を裁くな，汝が裁かれないためである』と。」

「単に裁きの問題ではありません！　何が正しいかということです。8年間というものお父さんはあの人達を私達の土地に住ませていたでしょう。彼らがそこに住みついた時には良い土地でした。私達の地所のうちでもっとも良いところでした。彼らはそこを荒れるにまかせ，しかも地代といえば，ただ払いたい時だけほんの少しばかり払うだけで困った時や全額払えないときにはいつもかんべんしてくれというだけでしょう！」

「苦しい時が続いたのだ。去年の夏の干ばつは多くの人にとって辛いためしだった。」

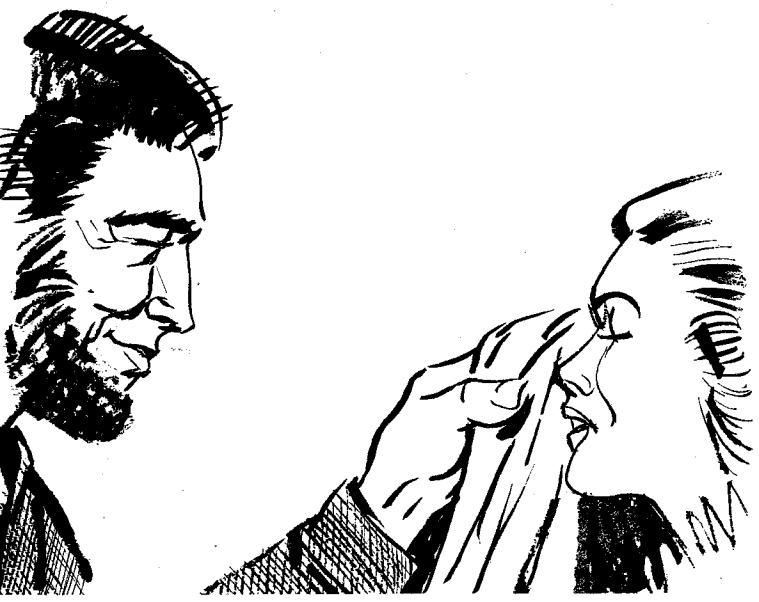
「私達もその中に入るのです！」と彼女は父親にすがりついてすすり泣いた。「お父さん，私はお父さんを愛しています。でもなぜいつもそう人に対して親切でなければいけないのですか。彼らはあなたから利益を受けるだけではありませんか！」

父は娘の背中を軽くたたいてやさしく言った。「まあ，そりゃ，どうも仕方がないのだよ。」父はマーサの荒れた手をとり，固くなった指をなでた。「なあ，マーサ。おまえはお母さんが死んでからは苦労のしどおしだった。面白いこともなく，私と弟達の世話をすることだけで青春時代を送ってきた。私はそんなことは望んでいなかったのだよ。しかしいつかはおまえに埋め合わせをしてあげよう私達は丘の上に家を建てよう。」

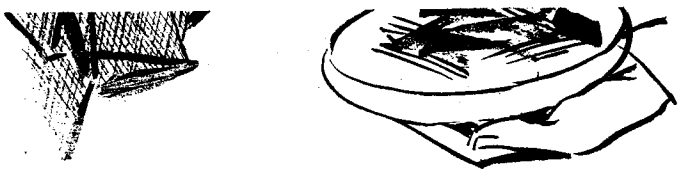
丘の上の家！これこそ彼女がこれまでやってくるのを支えてきた力であり希望であった。他の娘達がダンスやパーティーに行ったり若い男達とはにかみながらも楽しく過ごしている時に，彼女は家にいて料理や掃除や洗濯，アイロンかけをしたり，野良で父親のそばで働いていたのである。彼らは新しい家を建てる金をつくるために

アロンサン家に土地を貸していたのであった。そして今，父親はその負債を免除しようと言いだしたのである。

彼女のまぶたから一しづくの涙がこぼれた。父親は大きなハンカ



バージニア・モーガン・カミヤー



チをとりだしてそれをふいてやった。「おまえはこの家の女主人だ。」「意見をいう権利はある。私はおまえの賛成なしにものごとを決めることはしないつもりだ。だが一晩考えてお祈りをしようではないか。」と父は言った。

小さな寝室でマーサは髪にブラシをかけながらすわっていた。つやのある，茶色に波立った日中はいつもきちんとうしろの方にピンでとめている髪が肩のあたりでゆれていた。彼女は揺れ動く鏡の中をのぞきこんだ。顔色はよかった。眼はかわいらしかった。これは彼女の母親が舞踏会に出かける準備をしているときにのぞきこんだやり方だろうが。母親は南部美人でぜいたくに育てられた。母は福音のためにもっていたものを全て捨てたが，決して不満はいわなかった。しかし苦しい生活がとうとう母を死なせてしまった。父は小川のほとりに小さな小屋を建てたので，母は水をくみに遠くまで行かずにすんだ。父はいつかこのようなきれいな，もちろんそんなに大きくない一つの家を建てることを約束したのであった。彼らは丘の頂上にカエデの林でふちどられた場所をもっていた。母は決して自分の家を持つことができなかった。マーサもまた持てないだろうか。「私のためだけじゃないわ」と彼女は鏡の中の像に向かってはげしく言った。「小さなベンジャミンのためだわ！　もし私達が乾燥した場所に移ることができたら，あの子もクループやその他の病気がそんなに重くならないだろうとお医者さんがいっていたわ」

彼女は絶望的にうなだれて悲しそうにベッドの方へ行った。しかし彼女は眠れなかった。彼女のすべての存在は美しいものや，意味もない苦役から解放されることを求めていた。彼女は起きあがって部屋を横切って暗やみの中へ出ていった。一個のトランクが隅に置いてあった。彼女はそのフタを開けた。ラベンダーの香りがその中からただよってきて，彼女は泣き出した。ずっと前に死んだ母が残したものがすべてのトランクに入っていた。黄色のしゅすの結婚衣裳や，リボンで包んだいくつかの手紙や，フランネルに包まれた重い銀の茶器セットがあってそれらのにおいがしていた。

次の日は何もかも悪くなるように思えた。小さなベンジヤミンは病気で学校を休んで家にいなければならなかった。その子を看病しながらアイロンをかけているうちに，父のいちばんいいシャツをこがしてしまった。またその仕事が終ってから，父がお昼に入ってきて雇い人がやめたといった。「すまないなあ，お前」と父はまるで自分が悪いかのようにやさしい声でいった。「これはお前が明日町へ行って新しい雇い人を見つけなければならないということだよ。私はオマリー兄弟と峡谷に行って，杉の木を切る約束をしてしまった。だからおまえには手伝いが要るだろう。」

「大丈夫です。お父さん，私は行きます。」彼女はその旅が心配だった。それは職業紹介所に行ってもっとも粗野な人間たちと交わることを意味していた。しかし，父は正しかった。彼らには雇い人が必要だった。

次の朝父がオマリー兄弟といっしょに出かけてから，彼女は若いジョセフを学校に送り出し，小さなベンジヤミンと彼女の留守中ベッドに入っているように約束して，それから町へ行こうとして馬に鞍をつけた。

職業紹介所で彼女は順番が来るのをベンチにきちんとすわって待っていた。その間彼女のまわりを，坑夫や，馭者や，鉄道員などがおしゃべりをしたり下品な冗談をいったりしながら歩きまわっていた。彼女はカトラー氏の前に立ってようやくほっとした。彼はおどろいて言った。「やあ，マーサさんここで何をしているのですか」「私達は雇い人が必要なのです。カトラーさん。前の人はやめてしまい，父は自分で来ることができなかったのです。」

「困っているのはあなただけじゃありませんよ。あのむこうの隅の方で友人に悪態ついているあのデカイ奴をごらんなさい。あれはモンタナへ荷物を運んでいる陸上運送会社のボスなんですよ。彼の最もよい馭者だった若いジョナ・アロンサンがちょうどやめたとこなんですよ。」

「ええ？」マーサは本当に驚いたのではなかった。あてにならないアロンサン家の人々にはありそうなことだった。

カトラー氏は，列をつくっていらいらしながら自分の順番がくるのを待っている人たちのことも忘れておしゃべりを続けた。「しかも，彼は一言のことわりもなしにやめたのです。給料を全部受けとって1千ドル以上でしょう。」

かろうじてショックを抑えながらマーサは言った。「彼は何をしようとしていると思いますか。」

カトラー氏は笑った。「何をする？若い者が1ドルを持って何をすると思いますか。どうせ好きなことをやってムダ使いするだけでしょうよ。」

彼女は早口に言った。「私は行かなければなりません。カトラーさん。雇い人を私達のところに送ってくださいますか。」

「承知しました。今日午後できるだけ早く送ります。」

家に帰りながら，彼女は馬の腹を猛烈に突いた。そう，ジョナ・アロンサンは1千ドル持っているのだった。彼はアロンサンの6人の子供のうちいちばん年上で，彼女とほぼ同年だった。彼女は，彼

がいつも空腹そうな様子をして，そまつなぼろ服を着ていつも学校におくれてこそこそと入ってくる少年だったことを憶えていた。彼は18歳の時運搬の仕事をするために出ていったのであった。それは辛い荒仕事だったが賃金はよかった。彼はそれを２年間やりつづけた。そして今彼が遊ぼうとしていることは明らかだった。

彼女はそれについて考えれば考えるほど，ますます怒りがつのっていった。「あれは私達のお金だわ！あの役立たずのろくでなしの父親が借金を払わないつもりならば，息子が払うべきだわ。」

彼女が家に着いたとき，小さなベンジャミンの咳はさらにわるくなっていた。ベンジヤミンは彼女の留守中に起き上ってねまきのまま遊びまわったのであった。そして今，前よりもいっそうから咳をしていた。彼女はからしとハッカをねりあわせながら，なんどもなんども考えた。「もし私達が乾燥した所に適当な家をもっていたらこの子はいつもこんなに病気ばかりしていないだろうに。」

彼女はからしこう薬をその小さな子供の胸にピッタリとはりつけた。「そうだ，こうしよう。」と彼女は言った。ベンジヤミンのうったえるのも聞かず，彼女は部屋にかけ込んで，戸をばたんと閉めた。怒りにふるえながら彼女はペンとインクと紙をとって次のように書いた。

ジョナ・アロンサン様

拝啓

あなたが陸上運送会社との雇用契約を解かれて，多額のお金を受取られたことをよく知っております。あなたも気がつかれていると思いますが，あなたの家族は私達に対して今住んでおられる土地の８年間の地代の借金があるのです。あなたのお父さんはそのお金を払えないし，払う気もないので，道義的責任はあなたに帰すると思われます。私達は，できるだけ早く払ってくださるようお願いします。

マーサ・ディッケン

彼女は戸のところへ行き，ジョセフがブラブラと小道を歩きながら学校から帰ってくるのを見て大声で叫んだ。「この手紙をアロンサンの家へもっていきなさい。ジョナ・アロンサンにちゃんと渡してくるんですよ。」

次の日，マーサが洗濯物をかけているとジョナが家の方へ来るのが見えた。彼は彼女に話しかけないで，階段のところに包みをおいて大股に歩いていった。

手紙はなく，札束だけであった。紙幣ばかりで１千ドル彼女はそのお金をつかんで家にかけこんだ。そして小さなベンジャミンを抱きしめて，「ベンジー！」と叫んだ。「とうとう私達は丘の上に家が建てられるのよ！　そしておまえはよくなり，みんなもっときれいになるんだわ。」彼女が歌をうたいながら部屋の中を踊りまわっているのを，小さなベンジャミンはおどろいて見つめていた。

彼女は父の帰りが待ちきれなかった。土曜日の夕方父が帰ってきたとき，疲れて具合が悪いように見えた。彼は山の中で重い風邪をひいたのだった。それで彼女は家事の残りの仕事を新しく雇った人にさせて，父をすぐベッドにねかせた。「父には明日言おう」と彼女はひとりごとを言った。

父は病気が重くて日曜学校に行けなくなったのは年とってはじめてであった。それでマーサと子供達だけで行った。彼女はボンネットをかぶり，いちばんいい黒のドレスを着て座り，讃美歌を歌いレッスンに聞き入っていたが始終彼女は家の寝台の敷きぶとんの下にしまいこんだお金のことで心をうばわれていた。

集会が終ってから監督はみんなと握手しながら玄関の所に立っていた。

「あなたのいいお父さんは今日はどこへ行ったのですか，マーサ。」

「病気なのです。監督さん，それで来れなかったのです。」

「それはお気の毒に。今日午後ちょっと寄ってお会いしてみましょう。」

「どうもありがとうございます。」と彼女は言った。「父もきっとよろこぶでしょう。」

「今朝欠席した人はほかにもいるんですよ。アロンサン家の一人が来ませんでした。なぜだかご存じですか。」

彼女はほおを赤らめた。そしてある理由から少し罪悪感を感じた。

「いいえぜんぜん知りません。」

家で，彼女はパンを切りミルクを注いで食事のしたくをしているとき，人をおどろかすように注意ぶかくしかけをしておいた。彼女が父のところへお盆をもって行き，そして父がナプキンをとりあげた時，そこにお金があるという計画であった。

父が呼んだ，「なあ，マーサ。」

「何ですかお父さん。」

彼の顔付は心配そうに見えた。「私はおまえが家に帰ってくるのを待っていたんだよ。アロンサンの家で何か困ったことが起ったらしい。お前あそこにいって何かおまえが助けることのできることはないかみてきてはくれまいか。」

「いったいどうしたのですか。」

「アロンサン姉妹が今朝叫びながらやってきて，ジョナが家を出ていったと言っていたのだよ。」

「何か理由を言っていたのですか。」

「いや，ただの書きつけを置いていっただけで，それには『私は行きます。そして二度と帰ってきません』と書いてあったそうだ。」

アーサはのどがつまりそうだった。

「多分，また運送にもどったのでしょう。」

「いや，そんなはずはない。あの若者は一カ月前監督のところに行って自分が伝道に出られるかどうかたずねた。彼はそのためにかせいだお金を全部ためておいた。彼の家族は，彼を大変誇りにしていた。そして彼はただ召されるのを待っていた。だから彼がいなくなるというのは不思議なのだ。おまえあそこに行ってアロンサン姉妹をなぐさめてあげられるかどうか見てきてくれないかい，マーサ。」

しかし，答はなかった。彼女は自分の部屋にかけこんで，膝まずいて彼女がやったことの恐ろしさに気がついて叫んだ。

「主よ私をお許し下さい！お許し下さい！」

＊　　＊　　＊

砂漠の中を遠く行ったところで，ジョナ・アロンサンは乗っている馬を普通の速さにおとしていた。彼の怒りは消え去っていた。彼は手綱をゆるめたままにしてがっくりとうなだれていた。疲れた馬は，猛烈な駈足から解放されたのを喜んで，とぼとぼと，歩いていた。次第にその若者はそのとぼとぼ歩いているリズムに気がついてきて，こう言っているように思えた。「彼女は知らなかった。彼女はしらなかった。彼女はしらなかった。」

彼は手綱を引き，馬はうれしそうにとまった。数分間ジョナはすわって考えていたが，それから向きを変えて今来た道を引返しはじめた。

「僕はもどろう。……他の運搬の仕事をみつけよう，……またお金をためよう，……そしていつか，主が私に望んでおられることをしよう！」

著名な宗教欄編集者MIAを探訪

モルモニズムは若さを保つ

教会の会員はみな，外部の人達がＭＩＡのプログラムについていだく印象に関心をもっています。ユナイテッド・プレス・インタナショナルの専任編集者であるルイス・カセル氏がソルトレーク市に数日滞在し，ＭＩＡの六月大会を訪問して，ワード部のＭＩＡ集会やプログラムに出席しました。次はカセル氏がユナイテッド・プレス・インタナショナル紙で報道した談話から抜粋したものです。

1968年４月６日土曜版「デゼレト　ニュース」からの抜粋

12歳から25歳までのモルモンは皆自動的にＭＩＡプログラムに登録され，参加するしないにかかわらず，名簿にその名前がのる。会員が広く散在していることを考慮に入れると，どのＭＩＡの組織も出席率が平均しておよそ登録人数の⅔もあることは注目すべきことである。

相互発達協会（略してＭＩＡ）という名前とそれを組織した霊感はブリガム・ヤングによる。彼は迫害にあったモルモル達が，ユタ州の大塩湖の岸辺に「新しいシオン」を建設するため，西の荒野を牛車隊で歴史的な旅をした時の教会の大管長であり，開拓指導者であった。

約一世紀前（正確には99年前）ブリガム・ヤングは，少年の非行に関して，今日我々の時代にあって社会学者が警告していると同じ結論に達した。つまり子供を問題から守る最良の方法は，健全な活動に参加させることだという結論である。

彼の教唆により「すべての良きこと，美しきことを求める」のを奨励するため，モルモンの少年少女のためにいくつかのグループが創設された。

モルモンが禁酒禁煙であることを知っている人々は，「彼らはダンスにも眉をひそめるであろう」としばしば考えるよ

うである。ブリガム・ヤングは，ダンスやバイオリンをひくことさえふまじめだと咎められるような厳格な清教徒の家庭で育ったが，こう語っている。

「私は自分の子供には，そのような不自然な訓練はさせないつもりです。ダンスへ行ってもいいし，音楽を勉強し，小説を読むのも良いし，彼らの心を向上させることは，何でもさせ，彼らを自由にして，身も心も束縛するようなことはしません」

19世紀半ばにしては，珍らしい程，広い心の持主であったこのブリガム・ヤングの精神は，今日でもなお，モルモンの若い人達のプログラムに反映している。フォーク・ダンスやワルツだけに限らない品のある少年少女の舞踏会は，モルモンの社交生活の大きな一部を占めている。若い人達は，ＭＩＡの集会で自由にダンスのレッスンが受けられる。年配者も，ＭＩＡやワード部が開催するダンスに出席している。

金曜日か土曜日の夜には，ソルトレーク市だけでなく世界中に散在するモルモンのレクリエーション・センターで，教会主催のダンスパーティがいくつも催されている。

教会は礼儀の標準を強くうち出している。つまり，フラッグやグーガルーといった「肩や腰をふったり，極端にねじったりするような，体をグロテスクにねじり動かす」ダンスは除外している。休憩時間にはフロアーショウがあって，退場する人もそれを思いとどまる。

非常にかわいらしいモルモンの少女達は「控え目なミニ」と言えそうな長さのスカートをはいている。（あるモルモンの父親は私の憶測を認めるように次のように語っていた。スカートの長さについては，父親と娘の間で，時には娘が涙ぐむ程はげしく言い合って結局はお互いに歩みよったものですと）

青年のプログラムには，音楽，演劇，スカウティング（ボーイスカウト等）やスポーツも強調されている。

音楽を愛好する心もまた，モルモンの歴史に深く根ざしている。

モルモンの開拓者達は荒野を横切る難儀な旅を続けている間，歌をうたって心を励ました。世界的に有名なタバナクル合唱団や，ワード部の音楽指導者に訓練された7000余のコーラス・グループによって，今日もなお，その伝統は生かされている。楽器の演奏も，奨励されている。少なくとも一年に一度は，各ワード部で音楽祭が開かれ，そこでは，若人達が，歌声や，いろいろな楽器演奏によって，タレントを競い合う。私の出席した音楽祭では，キルト（スコットランドではく男子用の短いスカート）をはいて，バグ・パイプを演奏したグループがあって，あたかも今日の風潮にさからうようにさえ見えた。

モルモンがソルトレーク市に到着して着手したのは，シカゴとサンフランシスコの間に建設した大きく立派な劇場であった。1862年にそれが建設されて以来，演劇は，すべての年代のモルモン，特に若い人達の生活にとって重要なものとなっている。モルモンのワード部やＭＩＡ（相互発達協会）では，一年に一万もの演劇を上演している。驚いたことには，それらの大部分がミュージカルなのである。私が観劇したものは明らかに，しろうとの製作になるものであったが，一般に教会の演劇として想像される水準以上のものであった。

モルモンはアメリカで最初にボーイ・スカウトを後援した教会であり，今日でも世界で最大のボーイ・スカウト・プログラムを運営している。1928年には青年にとってより高いプログラムが必要であることを認め，「バンガード・スカウト」と呼ばれる運動を開拓した。５年後に，それは全国ボーイ・スカウト連盟によって正式に採用され，今日では，エクスプローラー・スカウト・プログラムとして全国に知られている。

ＭＩＡがモルモンの少年達を引きつけている最大の魅力は組織的に運営されて競いあうスポーツである。各ワード部それぞれに，バスケットボール，バレーボール，ソフトボールなどの年齢別チームがいくつかある。彼等は，定期的にリーグ戦を行なって，各リーグのチャンピオンは地区決勝へ進出し，さらに最後は大規模な全国トーナメントへ進む。バスケットボールのトーナメントは毎春ソルトレーク市で開かれ，野球のワールド・シリーズと同じような興奮を引き起している。

この若い人達に対する広範なプログラムを押し進めてゆくには，大人が多くの時間をとって指導しなくてはならない。

ホームティーチャー，日曜学校の教師，演劇の監督，ダンス，音楽の教師，スポーツのコーチ等，他のものも数えると典型的なモルモンのワード部では，無報酬で働く仕事が250もある。

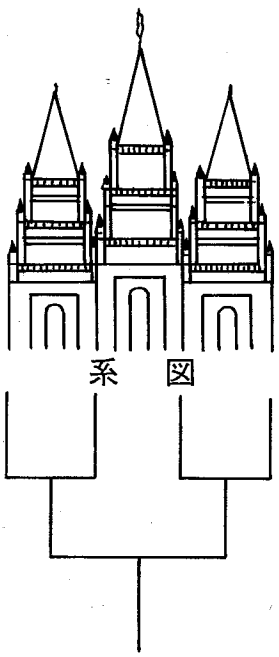
多くのモルモンは，ＭＩＡの活動や教会の仕事に一週間のうち15～30時間を費していると語ってくれた。

他の多くの宗派では，それほど多数の大人がそれほどの時間を奉仕することは，まったく困難であろう。モルモンにはそれができる。タナー副管長は次のように語っている。「末日聖徒イエス・キリスト教会には，傍観者の会員はありません。私達は，仕事を依頼されて，言い逃れや言いわけをしたり，回避したりしません。子供の時から，教会の召しは，神のお召しであると教えられています。心よりの信仰をもつ人々は神が召したもう時に，はいと答えるのです」

モルモンがまじめな信仰をもっていることは疑問の余地がない。そしておそらくはそれが，若い人々を教会にひきつけている最大の秘けつなのであろう。

ただ「ＭＩＡは若い人々を教会にひきつける」という理由だけにしても，有名な新聞記者の記した前述の文章は，ＭＩＡの影響の大きいことを述べており，霊感によるこのプログラムに活発に参加するすべての教会員を勇気づけてくれるものです。

神殿記録索引局



組織されて75年の間に，系図協会は世界各地から系図に関する莫大な情報を収集している。この収集された記録によって幾千もの人々が自分の系図を探し出し，自分達はどこからきたのかを発見し，また先祖についての消息を思い出してきている。このようにして私達は何百万もの人々に神殿の業をほどこす600万以上の家族の記録を系図協会のアーカイブ（記録保存所）へ保管してきた。

神殿が多くなってくるにつれて，系図の情報を収集する作業も増えて，今日までに，各国から集められた幾万幾千もの人々が親の心を子に，子の心を親に向ける業にたずさわっている。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，世間の人々とは違った理由で系図を探究している。私達の救いにとっての仕事は必須のものである。聖なる神殿の真の族長制によって数々の家族を共に結び固めることは永遠の原則である。それは聖なる神権に関する真の族長（家長）制度に基いて，いくつもの家族が結び固められるための変らざる原則なのです。

会員が神殿へ入る回数がふえていくにつれて，血縁の死者に対する儀式もより多く執行されてきている。そしてそれに伴って（主から与えられた責務に対して聖徒達が忠実である結果）地上でつなぐところのものは天にてもつながれ，地上でとくところのものは天にてもとかれるよう，儀式の記録が保存されている。それは予言者ジョセフ・スミスによって次のように語られている。「人或いはわれらが語るところを極めて大胆なる教理と思う者もあらん。すなわち記録をなしまたは地に於て結び而して天に於て結ぶ権能の教理なり。さりながらこの世に於けるあらゆる時代に於て，何時にても主が何人にもまたは何人たちにも実際の啓示によりて神権の時代を与えたまいし時には常にこの権能与えられたり。これを以て，何事にまれこれらの人々権能によりまた主の御名によりてこれを為し，また正しく忠実にこれを行い，この事を適正かつ忠実に記録したるところは，大いなるエホバの定めたもう法令により天地の律法となりて何人もこれを無効とする能わざりき。われ誠を以てこの事を言うなり。何人かこれを聞かざるべきや。」（教義と聖約 128：9）

そこで，この啓示にしたがって，すべての神殿の儀式は主の宮（神殿）に忠実に記録されるのである。系図協会でも，正確な記録――天の公式な記録ではないにしても，聖徒達が記録を重複するのを避けるため，そして主の家にあって誰の儀式が執行されたかを確認するための記録――を作成している。この事は単にアーカイブに保管されている家族の記録に関してだけではなく，主の神殿でエンダウメントを受けた個々人の名前が記入されている小さなカード（縦横３インチと５インチ）についても言える。これらのカードはアルファベット順に整理されて神殿記録牽引局（ＴＩＢ）と呼ばれるところに保管されている。これらのファイルには，36万以上ものカードがあり，今日これは系図協会にあって最も大切な探求の手立ての一つとなっている。

２年程前，私達は教会のすべての人達が，この重要なファイル設備を利用できることに気づいた。神殿記録索引局に保管されているこの先祖の情報を得たいと思う人は誰れでもそれが得られるという制度が案出されたのである。申請の書式が作成されて新しい方法が生れた。この部分でわずか２年と云う期間に，有能な若い婦人たちが50万以上もの個人の名前を，照合している。平均して毎日おおよそ一千もの申請書について，申請のあった個々人に神殿の儀式が執行されているかどうかを照合し，もしなされていれば，カードに記録されている情報を提供しているのである。

この仕事は無料であって，個々人のカードの写しは，情報を求めている人へ送られる。もし家族の記録もほしいのであれば，これも複写をとってカードの複写と一緒に送られる。多数の家族記録であれば，それは有料となる。ふつう２，３枚のシートに対しては請求されず，４枚以上になる時のみ料金を請求される。

申請書は，ステーキ部長，ワード部監督のもとへ無料で送付され，彼らはその地方の教会ディストリビューション・センターを通じてそれらの申請書を処理するように手配する。申請者が申請書に記入するとそれは系図協会，(Genealogical Society, 107 South Main Street, Salt Lake City, Utah 84111,U.S.A）へ直送される。系図協会はその申請書に回答を付して申請者のもとへ直接返送するようになっている。

末日聖徒イエス・キリスト教会

系　図　協　会

ユタ州 84111，ソールトレーク市サウスメインストリート 107番地

索引カードならびにアーカイブ（記録保存所）保管記録複写申請書

枠の中にあなたの姓名，郵便宛先住所，郵便番号を記入して下さい。

照合希望の人についてあなたが知っている限りのことを下に書き入れて下さい。

姓 .....

名 .....

出生年月日 .....

出生場所 .....

結婚年月日 ..... 誰と .....

死亡年月日 .....

父親の姓名 .....

母親の結婚前の姓名 .....

末日聖徒イエスキリスト教会でのバプテスマの日付 ..... 末日聖徒イエスキリスト教会でのエンダウメントの日付 .....

他の結婚 .....

この人に対するあなたの続柄 .....

あなたの希望する写しはどれか，印をして下さい（裏面のただしがきをみること）

□ 索引カード（末日聖徒イエス・キリスト教会でのバプテスマ，エンダウメントの日付を記してある）

□ この人が親として記録されているアーカイブ保管記録（末日聖徒イエス・キリスト教会での，配偶者と結び固め，バプテスマ，エンダウメントの日付を記してある）

□ この人が子供として記録されているアーカイブ保管記録（末日聖徒イエス・キリスト教会での両親との結び固め，バプテスマ，エンダウメントの日付を記してある）

索引カードの複写を希望する時は，下記に印をして下さい。

□ 問い合せ　この調査の結果について私が問いあわせます。

□ 郵　送　この調査の結果を郵送して下さい。

索引カード見本

P	神殿　ハワイ
No.	No. 9525　巻 A　頁 227
姓名	田中八郎
出生年月日	1599年
出生場所	福島県　日本
死亡年月日	1687年9月22日
父親	田中太郎
母親	ミヨ
結婚年月日	1622年5月12日　誰と 山田キミ
家族代表者	山田　誠　5 gg Son
バプテスマ年月日	1888年11月20日　代理人
エンダウメント年月日	1889年1月4日　代理人
夫と妻の結び固め年月日	両親への結び固め年月日

印

これは，末日聖徒イエス・キリスト教会神殿索引カードの複写，ならびに系図協会アーカイブに保管されている家族の記録の複写を申請するためのフォームです。記録は英文ですが内容は左記の通りです。

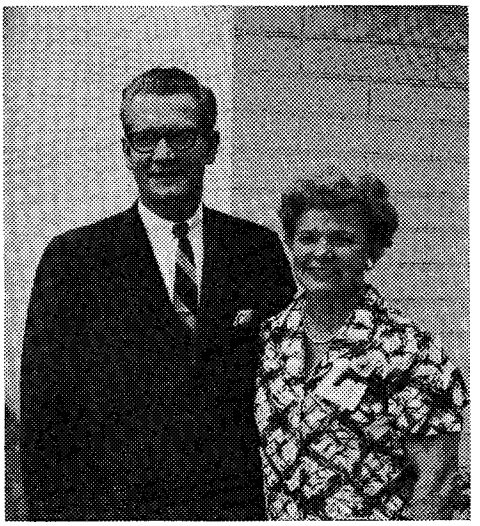
シーリングの日付は通常，索引カードではわかりませんが，アーカイブ保管記録とか，系図協会の情報部や，委任されている系図探求者を通じて入手出来る神殿記録原本のマイクロフィルムで知ることができます。

バプテスマの日付が，索引カードやアーカイブ保管記録に示されていなければ系図協会の図書館や支部の系図図書室でワード部や支部記録原本のマイクロフィルムで見つけ出すことが出来ます。

手数料は多量の申請についてのみ請求されます。

送金しないで下さい。もし必要な折は，あなたの申請を完成した時に請求されることになっています。

伝道部長メッセージ



日本伝道部長　ウォルター R. ビルス

愛する兄弟，姉妹の皆さん，

実りの秋を迎え，感謝祭も近ずいておりますが，私達も今年の収獲を調べてみる時であると思います。

多く与えられるものは，それだけ多く求められます。私達が主に仕える時に受けた多くの祝福を数えてみましょう。

主は私達のために方法を備えることなしに，何一つとして為すべきことをお与えになりません。しかし，私達は何かをする前にまず主に熱心に祈り求める必要があります。私達はある時にはその熱心な祈りに答えがなかったと思うこともあるでしょう。しかし，そう考えることはやめまょう。答えは確かにあります。問題が解決されたり，求めたものがすぐに答えられないこともありました。しかし，主はおそらく問題を解決する力をお与えになり，正しく問題を解決する知恵をお与えになって，私達を祝福して下さいました。また，おそらく私達が自らへりくだって善いことをし，より偉大なものに対して備えをするようにして下さいました。私達は奉仕する時に成長します。神の息子，娘である私達は天父の御意と大いなる望みとをより深く学ぶことが必要です。主の御業を助ける一層の備えをし，家長として私達の家庭に授かったいとしい子供達を教え導く責任を果す備えをしなければなりません。すなわち私達の両親が賢明に生き生きと私達に与えてくれたと同じ愛と献身と励ましとを与えるのであります。

この教会の会員になつた時，私達は以前には知らなかった事を経験しました。私達は教会を通して神より日々賢明な生活をする糧を与えられる故に教会を必要としており，また教会も私達を必要としていることがわかりました。今や収獲の時を迎えて私達は教会の働きにより何を得たでしょうか。私達は自ら価値ある備えをし，さらに学び進歩をはかったでしょうか。「神の栄光は英知なり」と教えられています。もし私達が教会の書物を読まず，与えられたクラスで教師としてよく準備をしなかったならば，何一つとして取り入れることができません。若い人々から老人にいたるまで，私達は本当に卓越した者となっているでしょうか。

ニーファイが，兄弟達に言ったことを思い起してみましょう。「私は主が命じたもうたことを行って行う。私は，主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである」。

私達のまわりを見渡すと，実に私達の生活は富めるものであります。多額の富を得る機会に恵まれた教会の多くの人々が，イエス・キリストの福音が生活の中にある喜びにまさるものはないと言っております。

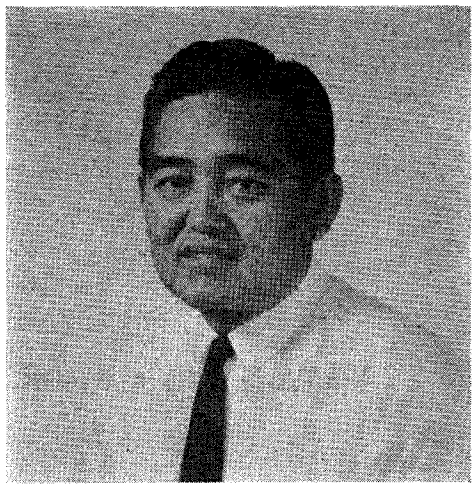
倉の中には多くの物があっても，もし私達がそれらを受けるにふさわしくなければ，それらを期待することができません。神殿に行く準備はこの一例であります。私は霊的，精神的，道徳的，経済的な意味で言っているのであります。

この準備は一朝一夕でなされ得るものではなく，また「ハイ，私は今日も，またこれからも主の家にまいります」と言うことはできません。私達のために備えられた倉の中にあるこの非常に聖なる贈物にふさわしく，聖典を学ぶことにより準備をし，主の家に入る価値あるものとなる必要があります。主が私達を愛されていることは，この時代に絶えずもたらされる多くの事柄によりわかるのであります。私達はこの世が終る前に，数々の偉大にして栄えある業を見ることでしょう。

福音に従って生活することはなみ大抵のことではありませ

（次頁へつづく）

伝道部長メッセージ



日本沖縄伝道部長　エドワード ユキオ 岡崎

愛する兄弟姉妹のみなさま，

私たちがこの伝道部にまいりましてからの五週間は素晴らしい経験でした。すべての支部をまわって日本の方々と軍人の方々にお会いしました。宣教師や多くの教会員にお会いして話しあいみなさまの証詞をうかがいました。ＭＩＡ，日曜学校，聖餐会に出席し，扶助協会のバザーに二回，パプテスマ会に一回出席いたしました。それらの機会を得て，私たちは信仰深い多くの聖徒たちがいる素晴らしい伝道部に働いていることを心から感じ，勇気を与えられたのです。日本沖縄伝道部の将来は大きく開けております。私たちがみな信仰深く自分の責任を成し遂げるならば，この伝道部に長足の進歩があることは明らかです。

10月11日から14日まで，軍人も含めてすべての地方部長と宣教師のゾーンリーダー（地区主任）たちで，指導者のワークショップ（研修会）を開きました。さまざまな問題を解決し，訓練を行なって，共に働くためのより良い方法を学びました。このワークショップにおいて，この伝道部がさらに立派になり，イエス・キリストの福音をもっと良く広めるのに役立つ多くのことを決定いたしました。

私たちはこの地で主の御業に携わることを楽しみとしております。道を踏んでゆく時いつも主の御力と指示を感じております。各地を訪れた時に教会員や宣教師のみなさまは私たちを心から歓迎して下さいました。みなさまの支部で私たちに示して下さいました親切に感謝しております。私たちはみなさまの一人一人にお会いした時に，これまでの生涯を通じて知りあっていた人たちのような親しみを感じ，みなさま方の愛を感じました。

この福音はイエス・キリストの福音であることを証詞いたします。私たちが身と心を捧げているこの福音は真実でありただ一つの救いに導く真理であります。神の真の教会に加わること，神より与えられた神権を持つことは何という恵みでしょうか。みなさま方の間で働くことができ，みなさま方の兄弟姉妹であることを本当にうれしく思っております。

主の特別の祝福がみなさまの上に豊かにあり，いつも御家庭の中とみなさま方の心の中にその祝福が宿りますように。

（前頁から）

ん。勇気を，信仰を，忍耐を必要とします。私達の多くは勇敢で恐れることがなく，試されて証詞が強くなり，終りまで耐え忍ぶことができると感じております。

兄弟姉妹，私は，私達すべてがこのようになることを願っております。しかし，私達と同じほどの信仰や強さがなく，援助と励ましを必要としている人々もおります。彼らに手をさしのべて，彼らが必要としているこれらの属性を伸ばす助けをし，確固たるものにしてあげようではありませんか。

この収獲の時にあたり，私達のバスケットはあまり一杯ではないかもしれませんが，それは取り入れに失敗したという意味ではありません。私達は充分な時間をつくり，残された仕事を成し遂げることができるのであります。

救い主がおいでになった時に，ランプの油を買いに行かねばならなかった故に，主に会うことができなかったおろかな乙女のようにならないよう備えをしましょう。主が日本の私達を祝福なさって私達すべてがついにはバラの花となって咲くことができますように。

ヒンクレー長老がバラの花のたとえを話されました。初めバラは小な枝だけでしたが，やがてつぼみが現われて，ついには美しい花を咲かせました。日本における福音はあたかもこのバラのようなものであります。まさにそのバラは満開になろうとしておりますが，この開花を見るために私達すべてを必要としているのであります。私達の立派な働きを見るすべての人々が天父を崇めるように，模範的な生活をしましょう。

神の羊の群に入って

10月6日安息日の午後，8・9月に新らしく教会に入られた兄弟姉妹が，日本伝道本部に集いました。この日集った改宗者は，京浜地区6支部に所属する人々で，ビルス新伝道部長ご夫妻を囲んで，証詞会を開きました。約40名の参加者が2時間余りにわたって，全員証しをし，一人一人を導いた主の御業に感動しました。

「ごらん，ここにモルモンの泉がある。あなたたちは神の羊の群に入って神の民と言われること，互いに苦難を軽くするために喜んで助け合うこと，悲しむ者を思いやって共に悲しむこと，慰めが要る者を慰めること，また神に贖われ第一の復活にあずかる者の数に入って永遠の生命を得るよう，いついかなる時でも，どのような所に居ても，どんなことについても，死に至るまでも神の証し人になりたいと心から思っている。従って，あなたたちは主からますます豊にその「みたま」を賜るよう，主に仕えてその命令を守るという誓約を主に立てた証拠として，主の御名によってバプテスマを受けるのに何のさしつかえがあろうか」と。

集った民はこの言葉を聞いて非常に喜びその手を叩いて，**これはわれわれが真心から願うことである**」と言った。　モーサヤ書18章

証　詞

村井博美
(東京中央)

私は最初，神とキリストの存在を信じることができませんでした。バプテスマを受ける時になっても，「神を信じる」と言えず，「神を信じなければならないと思う」としか言えませんでした。

しかし，昨日（10月5日），私はすばらしい体験をしたのです。一旦教会員となったからは最後までまじめな教会員であることが当然の義務（Ⅱニーファイ31—41）だと考えた私は聖典の勉強を続けてきましたが，昨夜も，モルモン経を味読した私は，いつものように祈りを始めたのです。すると，どうでしょう。しばらくすると，突然すばらしい感動におそわれ，しばらくの間声を発することさえできなかったのです。

私が，本当の意味で，心身共に教会員となったのは昨夜であると言ってよいと思います。新しい一歩を，それまで頭の中でしか認識できなかったことを身をもって知ることによって踏み出したということは，私の今後の人生に重大な意義をもつものであると考えております。私は，今，確信をもって証詞することができます。即ち，神とキリストは確かに生きていらっしゃるのであり，私たちが謙遜な気持ちで祈るとき，私たちに応えてくださるということを。

「汝心の中によく思い計り，その後願うことも し正しからば，汝願わざるべからず。願うこと正しからば，その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感ぜしむ」。（教義と聖約　9：8）私は弱き者であります。多くの誘惑が私を待ち受けていることでしょうが，誘惑が大きければ大きいほど，それを克服したときの報いは大きいことを信じて，一歩一歩進んでいきたいと思っております。

この証詞を，イエス・キリストの御名を通していたします。

アーメン

第一回 写真コンテストに応募しましょう！

読者の皆様による「写真コンテスト」を行います。自称，他称を問わず名カメラマンの兄弟姉妹，ふるって応募して下さい。

○テーマは，福音と生活（家庭の夕べ，ホームティーチングその他明るくユーモアのある教会生活風景）

○応募資格は，聖徒の道予約愛読者のみ

○応募方法は，応募写真（キヤビネ版，白黒カラーともよし）に題名と50字以内の説明文をつけて住所，氏名，支部名を記載して送る。

○締切は，12月31日で当日消印有効

○優秀作品は，聖徒の道に紹介し，記念品賞品？？？を贈呈

○送り先は，〒106　東京都港区南麻布5—8—10

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道「写真コンテスト」係

○お送り下さった写真，説明文はお返ししませんのでご了承下さい。

プライマリー〔初等協会〕はじまる

日本伝道部

救い主はしばしば人々に，子供たちに対してもっておられる限りない愛の気持と，純粋でけがれのない子供たちの気持を喜ばれるお話しをなさいました。

「幼な子らをわたしのところに来るままにしておきなさい，止めてはならない。神の国はこのような者の国である。よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ，そこにはいることは決してできない」

（ルカ　18：16～17）

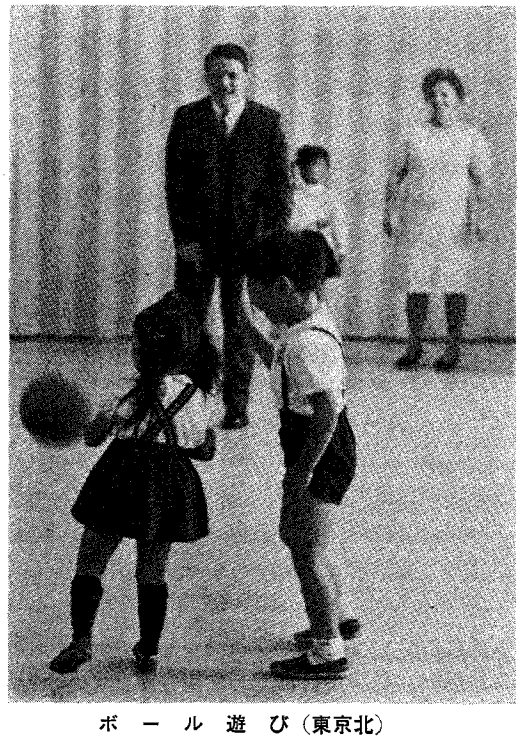
また主はこの神の霊の子供を正しくよりよく育てるための責任を両親がよく果すようにと警告なさいました。（教義と聖約68：25～28）　私たちがもし幼い時より子供たちを正しい方向へ向わせるよう努めるならば子供たちは大人になってもよき道を歩む事が出来るのです。

子をその行くべき道に従って教えよ，そうすれば年老いても，それを離れることがない。（箴言22：6）

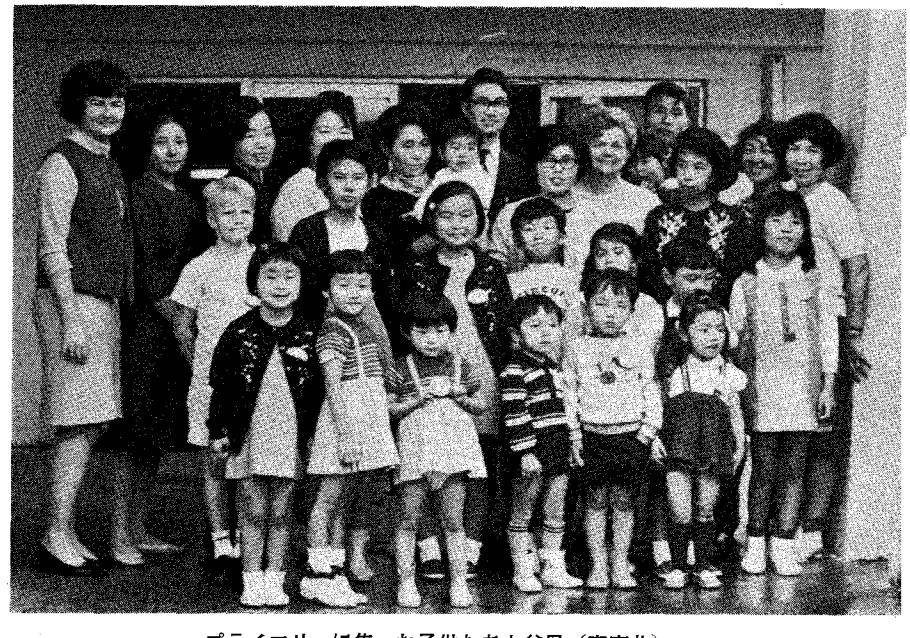
プライマリーは3歳～11歳の子供たちを対称に行われる集いであります。プライマリーの組織は1878年8月25日にユタ州ディビス・ファーミングトンにおいて発足しました。そして今やこの日本の地においても10月5日，第1回プライマリーが東京北支部と西支部で開かれました。つづいて12日から東京中央支部も活動をはじめました。今後ますます大きな進展があるよう祈る次第であります。

プライマリーに集った子供たち（東京西）

ビルス姉妹と東京北支部プライマリーの会長会



ボール遊び（東京北）



プライマリーに集った子供たちと父兄（東京北）

日本沖縄伝道部

ドキシー姉妹，岡崎姉妹と田口兄弟のご家族

各補助組織ともこの秋から，全世界統一のプログラムが開始されているが，「家庭の夕べ」も統一されたテキストをもって各家庭で開かれようとしている。それに続くものは，プライマリーが予想されるが，日本沖縄伝道部では，プライマリーの最初の集会を開こうとしている。（最初のプライマリーは10月4日那覇支部で開かれた。）

去る８月30日プライマリー第一副会長のリオン　W・ドキシー姉妹が当伝道部を訪れ，日本におけるプライマリー開始の目途を視察された。当伝道部はドキシー姉妹の来訪と賢明な指導を受けて感謝している。それで当伝道部では近日中に三宮支部か阪神地区の支部にプライマリーの組織のモデルを設けて，開始する予定である。

これにより，プライマリーの年頃の子供たちは，レッスンを受けて祝福を受ける。伝道部長会ではこのことに大きな期待を寄せている。なげなら，プライマリーは主のご計画の一つであり、子供たちを主の教会で働くよう準備させ，終局的には昇栄に導くからである。

偉大な指導者や優れた宣教師がプライマリーの頃からその教育を受けて育まれてきたことは，ご存知の通りである。およそ物事は小より大なるもの起る。今回のプライマリー開始が当伝道部のみならず全国に波及することが期待される。

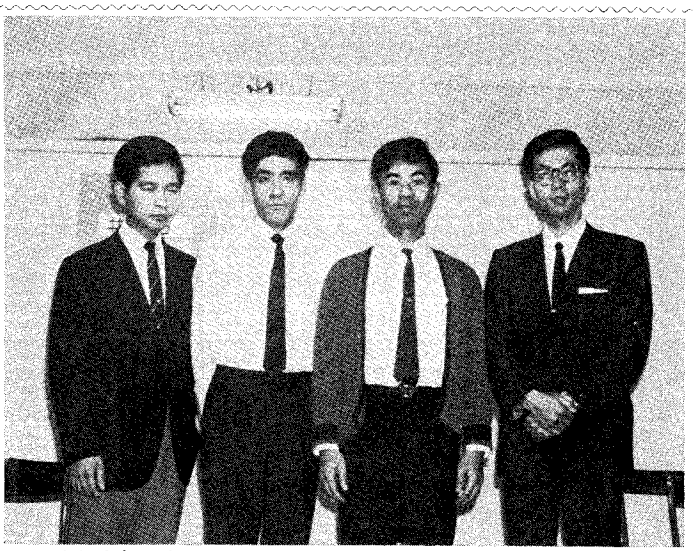
京都支部だより

世界中の人々に，日本で知っている所はと問えば，東京・京都と答えるでしょう。西に位置する千古の都，京都は確かに人々の一度は見ておきたい都市でしょう。この古めかしくも奥ゆかしく近代的な京都にあるのが私たちの支部です。この中からその信仰の強さを全国に発揮している会員が誕生して来たのです。長年支部長を勤めて来られた片山富夫兄弟は地方部評議員に，中村晴兆兄弟は，第一副地方部長として働らいておられます。

さて支部の活動の状況はと言いますと，ＭＩＡには学生を主体とした求道者の群。準備されたレッスン。統制がとりにくい程繁昌しているダンスクラス。活発な神権者が待望されている各組織には，兼任の会員が多くいて，課外活動は大変ですが，京都支部特有の何か事があれば短期間に発揮する団結があり，十月十日の支部バザーでは，すばらしい兄弟姉妹の働きが伝えられるでしょう。

建物は，皆さんご存知のきわめて古めかしいお屋敷を改造した仮住居です。支部長は建築資金のチャレンジを極力進めて行こうと会員に協力を求め，又推進しておられます。1970年ＥＸＰＯ（万国博覧会）を一つの契機に急速な会員獲得と支部改築をしようと一層の団結，宣教師との協力，神様の豊かな導きを願っています。読者の皆さん，京都支部の拡大と発展を祈って下さるように慎しんでお願い致します。京都にお寄りの際には是非支部にお立寄り下さい。心から歓迎させていただきます。

（宇野兄弟記）



京都支部長会　左より　玉屋兄弟（書記）川口兄弟（第２副）
高良兄弟（支部長）宇野兄弟（第１副）

ＭＩＡダンスクラス

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六八年十一月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十二巻第十一号

スポークン　ワード

リチャード L. エバンズ

忘れる者はだれか

我々がいかに速く遠くへ行こうと，いかに多くを作りなし遂げようと，決して答えられぬ問いがある。……探求，目的をたずね意味をさぐり確証を求めること。またいつの世にも我々は簡単なこのことを必要としている。幸福，健康，愛する人々，義務，礼儀，奉仕，誠実。そしてそれらに加えて謙遜さ――我々が知るべきことをほとんど知っていないということに気づく時に生まれる謙遜さを，必要としている。我々は時々，ある程度，少しのことを発見し，いくらかのことを支配する。しかし，天候，季節，時，潮の満干，歳月，病い，生と死，それらの自然は，我々にまかされたわずかの場における小さな言葉や智恵と，真理と究極の答えを求める飽くなき探究にもかかわらず，そのおもむくままに我々を運ぶ。二つの細胞がいかにして結合，分離し，あるものは目に，あるものは歯に，あるものは毛髪になるのかを誰れが知ろうか。誰れが，成長する種や草の葉や虫や生きた一つの細胞を作り出せようか。幾世紀の昔，神がヨブに尋ね給うたこの問いに誰れが答え得よう。「わたしが地の基をすえた時，どこにいたか。……かの時には……神の子たちはみな喜び呼ばわった。……もしこれをことごとく知っているならば言え。光のある所に至る道はいずれか。……だれが人なき地にも，人なき荒野にも雨を降らせるか。……あなたは天の法則を知っているか，……あなたは馬にその力を与えることができるか。……たかが舞いあがり，その翼をのべて南に向かうのは，あなたの智恵によるのか，うちに智恵をおいたのはだれか」。身体に癒える力を与えたのは誰れか。動物に本能を与えたのは誰れか。もし春の季節がめぐらず，種も育たず，収穫がなかったならば，どうであろう。人は多くをなし遂げ，多くを学び，多くを見い出した。だが慢心はできぬ。あらゆる詭弁と自己満足をもってしても，我々は無限の御父の前にある子供にすぎぬ。幸福と健康，謙遜，愛する人々，義務，礼儀，奉仕，誠実，それを必要とする神の子供である。「人は何者なので，これをみ心にとめられるのですか」[2]。他にこの問いがある。「忘れる者はだれか」。

1. ヨブ　38,39
2. 詩篇　8：4

ＦＥＮ放送で毎日曜日８：05～８：30 a.m まで、スポークン・ワードとタバナクルコーラスが放送されています。

聖徒の道
1968年11月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布５－８－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　１００円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号　「トウキョウ」マツジツ